

日本王代一覽

五

伊予
1088
5



日本王代一覽卷之五目錄

三十一葉 土御門院

在位十二年

森鴻次郎
正治二。建長七。
元久一。建永一。
承元四。

四十一葉 順德院

在位十一年

建曆二。建保六。
承久二。

五十一葉 後堀河院

在位十一年

貞應一。元仁一。
嘉祿一。安貞一。
寬喜二。貞永一。

六十一葉 四條院

在位十年

天福一。文曆一。
嘉禎二。曆仁一。
延應一。仁治二。

七十一葉 後嵯峨院

在位四年

寬元四。

八十一葉 後深草院

在位十三年

寶治二。建長七。
康元一。正嘉二。

門印
號 1088
表 5

日本書紀

日本書紀

正元一。

^{世一葉}八龜山院

在位十五年

文應一。弘長二。

^{四一葉}十九後宇多院

在位十三年

建治三。弘安一。

^{四一葉}十九伏見院

在位十一年

正應五。永仁六。

^{五十二葉}十九後伏見院

在位三年

正安三。

^{五十四葉}十九後二條院

在位六年

乾元一。嘉元三。德治二。

^{五十七葉}十九花園院

在位十一年

延慶三。應長一。正和五。文保二。

日本王代一覽卷之五

八十三代



土御門院

後鳥羽院ノ太子ナリ。諱ハ爲仁母八源在

子。承明門院ト號ス。法印能圓カ娘ナリ。内大臣

源通親養テ。後鳥羽院ヘイラセ。建久六年十二月。

爲仁ヲ誕生シキ。同十九年正月二讓ヲウケ。三月即

位。時四歳。近衛關白藤原基通攝政。後鳥羽院ニ太

二天皇ノ尊號ヲ奉ル。院中ニテ政務ヲ沙汰セラル。然

トモ。何事モ皆源頼朝關東ヨリハカラヒ申サル

十月。京都ノ守護。中納言藤原能保卒ス。歳五十二

十一月。花山院右大臣藤原兼雅。左大臣ニ轉シ。大炊

御門。大納言藤原頼實。右大臣トナル。十二月。相摸國

ノ士サシ縮毛シヅメ三郎重成。其亡妻ノ追善ニ相模河ノ橋ヲ
カク。重成カ亡妻公比條時政カ娘ニテ。賴朝室家平
政子ト姉妹ナルユヘ橋供養ノ時。賴朝モ其場ヘ行向
ル。歸路ニ落馬シテ。遂ニ病ニ罹ル。俗説ニ此時ハ的原
ニテ。義經行家ガ怨靈現レ。縮木嶺ニテ。安徳天皇ノ
御靈現スト云リ。イフカレ

正治元年正月十一日。征夷大將軍正二位前大納
言右大將源賴朝。病ニヨリテ髮ヲソリ。十三日ニ逝去。歲
五十三。治承四年ヨリ今年ニテ。世ヲ治ルゴト二十年
ナリ。賴朝ノ御臺所平政子尼トナル嫡子右少將賴
家十八歳ニテ家督タリ。外祖比條時政執權タリ。
賴朝出張ノ始ヨリ。時政輔佐トナリテ威ヲ振レガ。

此ヨリ其權勢日々盛ニテ。扇ヲ並ル者ナレ。其子義
時智謀アリテ。其勢父ニ相ツケリ。同月廿日。賴家
左中將ニ轉ス。同廿六日。賴朝遺迹ヲツキテ。家人即從
等ヲレテ。諸國ノ守護ヲ奉行セシムヘキヨレ。宣下セラ
ル。二月。釋奠并ニ大原野ノ祭ヲ止ラル。賴朝ノ穢氣
ニヨリテナリ。此ニヨリテ。鶴岳ノ祭モ一箇月延引ス。
四月。賴家營中ノ郭外ニ新ニ問註所ヲ作ル。善六信
ヲ執事トシテ。誹論ヲ決ス。此後賴家政ニウニテ。時政廣
元善信并ニ三浦義澄。八田知家。和田義盛。梶原景
時。比企能負。藤九郎盛長等相談ニテ。太小事ヲ執行。
掃部頭藤原親能ヲ京都ノ奉行トス。小笠原彌太郎。
比企三郎。同彌四郎。中野五郎四人。賴家ニ近侍レ。

此外ハ頼家ノ前へ出ルコトアタハス。此四人ハ鎌倉中ニテ狼籍スレトモ沙汰ニラヨハス。同月。高雄文覺謀反ノタクニアリテ。後鳥羽上皇ノ第二宮ヲ即位セシメシトス事アラハレテ。隱岐國へ流サル此ヨリテ。平惟盛ガ子。六代禪師モ殺ル。五月。僧俊祐宋國へ赴ク。六月。花山院左大臣兼雅上表ス。右大臣藤原頼實。太政大臣ニ任ズ。内大臣藤原良經。左大臣トナル。大納言源通親。内大臣トナル。八月。頼家。足立景盛カ妾ヲ奪フ。此ヨリテ。景盛怨ヲシムヨシ。景時讒レケレハ。景盛タチノ討レシトス。平政子ノアツカヒヨリテ免タリ。十月。結城朝光。頼朝ヲ慕テ頼家ヲ怨ルヨシ。景時

讒言レケレハ。朝光恐テ。和田義盛。三浦義村。藤九郎盛長等ト談合シ。千葉介常胤。小山朝政。畠山重忠等以下六十六人。鶴岳ニ會合シ。連判ノ狀ヲ以テ。景時カ罪ヲ訟廣元ヲタノミテ。頼家ニ奉ル。此ヨリテ。景時。鎌倉ニタテリ。エス相模ノ一宮へ逃カクル。十一月。頼家。比企能負カ宅ニ行テ蹴鞠。頼家ハ八々此戲ヲナス能負カ娘。頼家ニ寵セラレ能負此ヨリ威ヲ振ヘリ。十二月。小山朝政。播磨守護ニ任セラレ。京都ヲ守護ス。二年正月。梶原景時。謀叛ノ志アリテ。甲斐源氏。武田有義ヲ取タテシト約シ。急キ上洛シ。院宣ヲ給リ。筑紫ヲ取ントハカル。駿河國ヲ過時。在國ノ武士等。サヘキリテ合戦レケレハ。景時并其子。景季。景高。景茂等。一族皆

殺サレ有義以下。其同類處々ニテ殺ル。二月。政子
鎌倉ノ壽福寺ヲ立テ。僧榮西ヲシテ居レム。三月。
北條時政遠江守ニ任ズ。七月。花山院左大臣兼雅麿
ス。歳五十三。十月。頼家從三位ニ叙シ。左衛門督ニ
任セラル。十一月。近江國土柏原彌三郎勅命ヲソ
ムクニヨリテ。頼家ニ命。武士ヲシテ誅セシム。后。比奧
州ノ芝田ト云者謀叛ス。頼家武士ヲ遣シテ誅セシム。
建仁元年正月。主上院御所へ朝覲ノ行幸京都ノ
守護小山朝政。佐佐木定綱モ供奉ス。此時城長茂ト
云者。朝政カ宅へ攻來ル。朝政ガ家人。此ヲ伐敗リケレ
公長茂仙洞へ馳入テ。鎌倉ヲ亡サント申ス。勅許ナ
キニヨリテ逃走ル。朝政此ヲ尋求メ。吉野ニテ捕テ殺

ス。泰衡カ弟高衡モ。其黨類ニテ同殺サレ長茂公。
越後ノ住人ナリ。其甥資盛越後ニアリテ。鳥坂城
ニモル。越後佐渡ノ武士此ヲ攻ム。資盛力叔母坂額ト
云者能射能戰テ。奇手多討ル。四月。佐佐木盛綱
頼家ノ命ヲ受テ。鳥坂城ヲ攻敗リ。坂額ヲ生取ル。
資盛ハ逃去ル。坂額ヲハ鎌倉へ遣ス。阿佐利義遠此ヲ
申受テ。妻トス。坂額甚醜トイヘトモ。其武勇アルニヨ
リテナリ。七月。頼家百日ノ蹴鞠ヲ催シ。紀内行
景ト云鞠ノ上手ヲ。京都ヨリ一子キ師トス。毎日此
遊戯ヲ事トス。北條泰時近臣ニ就テ。其政ニヲコタ
ルヲ諷諫スレトモシタカハス。泰時ハ時政ガ孫義時
ガ嫡子ナリ。十二月。上皇倭歌所ヲ置テ。源家長ヲ

開闔トス藤原清範鴨長明藤原秀能ヲ寄人トス
上皇倭歌ヲ好テ尤其道ニ達シ給フ始延喜ノ御
時紀貫之等ニ命ノ古今集ヲ撰レヨリ村上ノ時大
中臣能宣源順清原元輔紀時文坂上望城五人ニ
命シテ後撰集ヲ撰レ一條院ノ時藤原公任拾遺
集ヲ撰レ白河院時藤原通俊後拾遺ヲ撰レ崇徳
院ノ時源俊賴金葉集ヲ撰レ近衛院ノ時藤原顯
輔詞花集ヲ撰レ後白河院ノ時藤原俊成千載集
ヲ撰ス今又上皇源通具藤原有家藤原定家藤原
家隆藤原雅經ニ命シテ新古今集ヲ撰セシ古今
ヨリ此ニテテラ八代集ト號ス

二年正月從五位大炊助新田義重卒ス 六月建仁

寺ヲ立テ禪宗ヲ始ム榮西開山タリ 七月賴家

從二位ニ叙シ征夷大將軍ニ任ス 十月又我内大臣源

通親薨ス歳五十四大納言藤原隆忠内大臣ニ任

ス 十二月基通攝政ヲ止ラレ左大臣良經攝政ス

後京極ト號ス此人倭歌ニ達シ又詩ヲモ作レリ

三年五月賴家叔父阿野法橋全成駿河國ニテ謀

叛ノ企アリ事アラハレテ殺ル 六月賴家伊豆ニ狩レ

和田胤長ヲシテ伊東崎ノ洞穴ニ入シム穴中ニ大蛇ア

リ胤長斬殺ス伊豆ヨリ駿河へ狩レ仁田忠常ヲシテ富

士ヲ入穴入シム 八月賴家病ニカカリテ巳ニ危カリケレ

八相坂ノ關ヨリ東二十八箇國ヲ以テ其子一幡ニ

讓ル相坂ヨリ西三十八箇國ヲ以テ弟實朝ニ讓

ル。二幡ハ比企能貞カ外孫ナリ。能貞已一人ニテ權柄
ヲ執ラント思此遺言ヲイキドフリテ。密ニ實朝及北
條一族ヲ亡サント謀ル。九月。能貞密ニ頼家ヘ申シ。
北條ガ一門ヲ亡レニ幡一人ヲレテ。心安ク家督ヲ繼
シメント謀ル。政子障子ヲヘダテ此ヲ聞テ。驚テ時政
ニ語ル。時政佛事ニカコツケテ。能貞ヲマ子キヨセ。天
野遠景。仁田忠常ヲレテ。能貞ヲ殺シ。能貞カ子。宗
朝并ニ其一族等。一幡ノ館小御所ヘ引籠ル。時政政子
ノ命ト稱シ。義時泰時畠山重忠。和田義盛等ノ軍
兵ヲ遣シ攻ケレバ。彼一族火ヲ放テ焼死ス。二幡モ同
所ニテ焼死ス。其同類皆殺ル。頼家大ニ怒テ。和田義
盛。仁田忠常等ニ命ノ。時政ヲ討シ。義盛シタカハズ

シテ。却テ時政ニ生口忠常ハ猶豫ノ内ニ誅セラレヌカハリ
ケレバ。政子ノカラヒニテ。頼家髪ヲソリテ。蟄居ス。正
治元年ヨリ以來。治世ワツカニ五年ナリ。時政等實
朝ヲ取立主君トス。頼朝以來ノ家人等。皆本領ヲ
安堵ス。時政カ妻。牧御方ハ。政子ノ繼母ナリ。此次テ
ニ實朝ヲモ害セントスル志アリトイヘトモ。義時等カ
介抱ニヨリテ。事不成。其後勅書。鎌倉ヘ遣サレ。實朝
從五位下ニ叙シ。征夷大將軍ニ任ス。時政執權。彌威
ヲ振フ。十月。實朝元服。歳十二。武藏守源義信加
冠タリ。時政理髮タリ。政所吉書始アリテ。始テ甲
冑ヲ著シ。乘馬等ノ儀アリ。頼家ヲバ。伊豆ノ修禪
寺ヘ流ス。十一月。實朝ノ使者。和田常盛。洛神

馬ヲ石清水八幡宮へ獻ズ 十二月上皇倭歌所
ニテ。藤原俊成入道釋阿ガ九十ノ賀ヲ行ハル。倭歌
ノ家ノ眉目ナリ。明年釋阿卒ス

元夕元年正月。實朝讀書具如孝經ヲ用ラル。中原仲
業侍讀タリ。太刀砂金ヲ賜ル 二月。上皇天王寺
へ御幸 三月。實朝右少將ニ任ス 四月。平家ノ餘黨
富田基度。三浦盛時等。伊勢國ニテ謀叛シ。伊賀伊
勢ヲ攻取ル。京都ノ守護武藏守源朝雅兵ヲ催シ。
基度盛時等ヲ攻殺シテ。其同類ヲ亡ス。朝雅ハ時政
ガ壻ナリ。コトニ其妻ハ牧御方ガ腹ナルニヨリテ。スコ
フル威ヲ振ヘリ 七月。實朝時政人ヲ遣シ。伊豆ノ
修禪寺ノ湯殿ニテ。頼家ヲ弑ス。歳二十二。頼家ノ

近臣等謀叛セントハカル。北條相模守義時。武士ヲシテ
伐平シム 十月。鎌倉ヨリ。北條政範。結城朝光。畠山
重保等上洛シ。坊門大納言藤原信清ガ娘ヲ迎テ。
實朝ノ御臺所トス 十二月。關東へ下向。政範ハ在
京ノ内ニ病死ス 同月。頼實太政大臣ヲ辞ス。攝政
良經太政大臣ニ任ス。近衛右大臣家實。左大臣ニ任ス。
内大臣隆忠右大臣ニ任ス 同月。上皇和歌ヲ詠シテ。
石清水賀茂住吉ニ納ム。各三十首ツナリ

二年正月。主上元服。時二十一歳 同日。實朝正五
位下右中將ニ任シ。加賀みヲ兼ル 三月。京都畿内
大風吹ク。是ハ僧榮西始テ禪宗ヲ開ケルタリナリ
ト沙汰アリケレバ。榮西ヲ追ハラフベキヨシ。勅セラル

トイヘドモ。又赦免セラレテ歸洛。六月時政其妻牧御方ガ讒ニテ。畠山重保ヲ殺ス。重保ハ重忠ガ子ナリ。去年實朝御臺所ノ迎ニ重保上洛ノ時京都守護源朝雅ト口論シ。朝雅ヲ辱シ。重忠ハ時政前腹ノ婿ナリ。朝雅ハ時政カ當腹愛婿ナルニヨリテ。牧御方ヨリク重忠父子逆心アル由ヲ時政ニ讒ス。重忠カ從弟稚毛重成ト云者アリ。此モ時政前腹ノ婿ナリ。重忠重成不和ナリケレバ。重成モ牧御方ト心ヲ合セテ。重忠父子ヲ滅サント謀ル。義時并ニ其弟時房様々諫トモ。時政老耄シケルエヤ。後妻ノ言ニ感ケルニヤ。遂ニ重保ヲ殺ス。重忠ハ此時武藏ニ居ル。鎌倉ヘ召寄せ。義時等ニ大軍ヲソヘテ。二俣川ニテ重忠ヲ待ウケテ合戦シ。重忠討

死ス。重成モ重忠ガ一族ナルニヨリテ。其密謀アリトハ人シラスシテ。此亂ニ同討殺ス。七月實朝時政カ宅ニアリケレバ。牧御方ヒソカニ時政ヲ勸テ。實朝ヲ害シ。其婿朝雅モ源氏ノ一族ナレバ。取立テ將軍トセントス。政子此ヲ聞テ。實朝ヲ迎テ。義時カ宅ヘ入レム。在鎌倉ノ武士皆義時カ宅ヲ守護ス。時政センカタナク剃髮シ。伊豆ノ北條ヘ蟄居ス。或説ニ。時政浴室ヲ構ヘ。實朝ヲ招ク。已ニ浴ニ入ントシケル時。義時來テ抱止テ入シメス。イカニト問ヘバ。レカクト申ス。實朝驚テ。サラハ時政ヲ討ト命ゼラル。義時ハヤ討候ト申シニ。時政ヲモ牧御方ヲモ。伊豆ヘ遷スト云リ。此ヨリ義時執權。其威時政ニ起ク。在京ノ武士ニ命

ノ朝雅ヲ誅ス。八月、宇都宮頼綱謀叛ノ聞ヘアリケレバ、義時小山朝政ヲシテ攻シム。頼綱髮ヲ剃テ陳謝ス。九月、藤原定家新古今集ヲ實朝ヘ贈ル。實朝倭歌ヲ好ムニヨリテナリ。十一月、大納言藤原實宗内大臣ニ任ス。十二月、政子ハカラヒニテ、頼家ノ子善哉ヲ鶴岳別當、尊曉ガ弟子トス。其後實朝ノ養子トナル善哉出家ノ公曉ト号ス。

建永元年二月、實朝從四位下ニ叙ス。二月上皇攝政、良經ノ館ヘ御幸セントス。其前ノ夜人アリ。良經ノ寢所ヘ入テ、天井ヨリ槍ヲ以テ、良經ヲ突殺ス。歳三十八。何人ノ所爲ト云コラシラス。尤イブカシ。近衛左大臣家實攝政。藤原實宗内大臣ヲ辭ス。大納言藤

原忠經内大臣トナル。十二月、家實攝政ヲ止テ、關

白トナル。十一月、主上十六歳、關白トナル。

兼元元年正月、實朝從四位上ニ叙ス。北條時房武藏守ニ任ス。二月、右大臣隆忠左大臣ニ轉シ、内大臣忠經右大臣ニ任ジ。大納言藤原道經内大臣トナル。同月、僧源空ヲ讚岐國ヘ流ス。源空、法然房ト号シ。黒谷ニ居テ始テ浄土宗ヲ弘ム。其門徒甚多シ。上皇ノ宮女戒ヲ受テ尼トナル者アリ。上皇怒テ法然ヲ流シ、其弟子安樂住連ヲ打斬。四月、九條前關白太政大臣藤原兼實薨、歳六十一。月輪殿号ス。二年二月、實朝痲瘡。六月、上皇熊野御幸。七月、内大臣道經右大臣ニ任ス。大納言藤原良輔内大

臣三任ス 九月熊谷直實法師黒谷ニテ死ス 十月
政子上洛熊野へ参詣 十二月鎌倉へ歸 同月實
朝正四位下ニ叙ス

三年三月道經右大臣ヲ辭ス 四月内大臣良輔右大
臣ニ遷リ大納言藤原公繼内大臣トナル實朝從二位
ニ叙ス 五月右中將ニ再任ス 七月實朝倭歌ヲ詠ジ
テ藤原定家ニ贈批點ヲ求メ定家口傳ノ秘記ヲ實朝
へ贈ル

四年五月上皇熊野御幸 七月上皇北面ノ侍秀康ヲ
上總國司トス 八月春日行幸 九月彗星見長サ三
尺餘 十一月主上十六歲何ノ故モナク上皇ノハカ
ラヒニテ位ヲ御弟守成ニ讓ル 年号正治二年

建仁三年元久二年建永一年兼元四年在位合ニ
十二年

八十四代

順德院 後鳥羽院第三子子諱八守成母八修明門院藤

原ノ重子贈左大臣範季ガ娘ナリ後鳥羽院ノ寵
愛ニヨリテ正治二年四月東宮ニ立ラル兼元二年十
月元服シタマヒ 同四年十一月御兄土御門院ノ
讓ヲ受テ即位時二十四歳ナリ近衛左大臣家實
関白元ノゴトニ此時ニ後鳥羽院ヲ一院トモ本院トモ
申テ政務ヲシロシメス土御門院ヲバ新院ト申テ
何事ニモカヘハス

建曆元年正月源實朝正三位ニ叙シ兼作權守ヲ

兼之元 二月僧俊苾芻。宋朝ヨリ歸ル。泉涌寺ノ開
山ニテ。初テ律宗ヲ弘ム。七月實朝貞觀政要ヲ
讀ム。九月藤原定家從二位ニ叙テ侍從ニ任ス。
十月鴨長明鎌倉ニ赴キ實朝ニ謁ス。賴朝ノ墓ヘ參
テ詠歌ス。同月藤原隆忠左大臣ヲ辭ス。右大臣
藤原良輔左ニ轉ジ。内大臣藤原公繼右大臣ニ任ジ。
坊門大納言藤原信清内大臣ニ任ス。信清公實朝ノ舅
ナリ。十二月式部大輔菅原爲長從二位ニ叙テ是管
丞相ノ子孫ニテ當時ノ學匠ナリ。
二年正月黒谷法然房源空死ス。去年赦ニ逢テ歸
京セリ。四月實朝大慈寺ヲ造ル。六月藤原信清
内大臣ヲ辭ス。大納言藤原道家内大臣トナル。道家公

月輪相國兼實ノ孫。後京極攝政良經ノ子ナリ。同月ニ
實朝ニ勅シテ閑院ノ皇居ヲ造ス。十二月實朝從二位叙
建保元年正月元日鎌倉地震。同月實朝管根三
嶋ニ參詣ス。賴朝ノ時ヨリニ所ノ參詣トテ。度々アル
コトナリ。二月泉小次郎親平ト云者アリ。密ニ賴家
ノ子千壽ヲトリタニ。北條一族ヲ滅ニトハカル同心スル
武士百二十餘人。安念ト云僧廻文ヲ持テ觸ニハリ
ケルヲ。千葉公成亂此ヲ捕テ。義時ニ送ル。拷問シケル
ハ白狀ス。即千親平并其同類ヲ尋ヌ。親平公其討手
ヲウチ殺シテ逃去。其同類ハ皆捕シテ流罪セラル。
同月閑院ノ内裏ヲ造ル。賞ニヨリテ。實朝ヲ正二位
ニ叙ス。義時正五位ニ叙ス。三月和田義盛其子義直

義重ガ泉親平ニ同意ニケル罪ヲ宥メラシメテ祈
望ム。實朝義盛ガ舊勞アルコトヲ以テ。義直義重ヲ免
ス。義盛重テ其一族九十八人ヲ携ヘテ。其甥和田平
太胤長ガ親平ニ同心セシ罪ヲ宥メシコトヲ請望ム。實
朝許容セス。義時ニ命レテ。胤長ヲ縛テ。一族ノ前ヲ
渡シ。奥州へ流ス。義盛腹立ス。義盛又重テ。胤長ガ屋
敷ヲ賜ニテ。望ム。實朝同心シケルガ。忽變改シテ。義時ニ
賜ル。義盛大ニ怒テ。遂ニ謀叛ヲタクム。四月。義盛ガ
嫡孫朝盛ハ實朝寵愛ノ近習ノ臣ナリ。故ニ義盛ガ
逆心ヲナケキ。君父ノ恩義共ニステ。ガタクシテ。即チ
髮ヲ剃テ遁世ス。義盛是ヲ追カケテ呼飯ス。實朝
使者ヲ以テ。義盛ヲナタメラル。義盛君ニライテ。怨

ナシ。義時ガ怒ナルヲ。祈申サント答フ。五月二日。義
盛其一族并同類ノ輩ヲ催シ。實朝ノ館ヲ襲ヒ。義
時ガ宅ヲ攻ム。三浦義村ハ義盛ガ從弟ナリトモ引
分テ幕府へ赴ク。義盛ガ二男朝夷名。義秀生年
三十八。勇力無双ノ者ニテ。門ヲ破リ庭へ亂入シ。幕府
ノ士コトニ逢テ。打殺サル者甚多シ。幕府ニ火ヲ放ケレ
ハ。實朝ハ火ヲ避ケ。法華堂へ赴ル。義時廣元相從。此
門ニ北條泰時。其弟朝時。足利義氏。三浦義村。波多
野忠綱。武田信光等。カラ竭シテ防戦ス。三日。義盛ガ方
へ。横山時兼馳加ル。幕府へハ。千葉成胤。其外近國
ノ軍勢。數多馳加リ合戦シケル。ハ。義盛遂ニ打負テ討
レス。歳六十七。其子常盛四十二歳。義直卅七歳。義

重三十四歳。義信二十八歳。秀盛十五歳。孫朝盛等
或ハ討シ。或ハ逐電ス。同類土屋。義清。岡崎。實忠。横山
時兼。古郡。保忠。土肥。惟平等。并梶原ガ餘類。或ハ討シ
或ハ逃隠ル。朝夷名。義秀ハ相殘レル。五百人ヲ率テ。船
ニ乗テ。安房國ヘ赴ク。其行末ヲ知ストモ云。又落行
ケルサキニテ討レタリトモ云フ。或ハ説ニハ對馬ノ國ヘ渡リ
高麗國ヘ赴クトイヘリ。其餘ノ徒黨。所々ニテ殺サル
胤長。毛配。所ニテ誅セラル。六月。實朝幕府ヲ新
造ス。八月。清水寺ト。清閑寺ト。爭論コトアリ。南
都ノ衆徒。八清水寺ヲ救フ。叡山ノ衆徒。八清閑寺ヲ
救フ。檢非違使ニ勅レテ。雙方ヲ宥ラル。南都ハ從テ。
叡山ハ從ハス。コレニヨリテ。官兵等。山僧十餘人ヲ打殺シ。

二十人ヲ生虜ル。山僧怒テ。叡山ス。十一月。藤原定
家。秘本ノ萬葉集ヲ實朝ニ贈ル。
二年。二月。實朝醉後。ホトホリノ疾アリ。壽福寺ノ長老
榮西。茶ヲ奉テ。其宿酒ノ煩ヲ滌ク。三月。春日。行幸
四月。叡山ノ僧徒。園城寺ヲ燒。實朝コレヲ造替。
三年。正月。北條時政。伊豆ノ奥山ニテ病死ス。歳七十八。
六月。僧榮西。死ス。京都。建仁寺ニテ死ストモ云。又鎌
倉。壽福寺ニテ死ストモ云。八月。九月。鎌倉。度々大
地震。十月。藤原公繼。右大臣ヲ辭ス。十二月。内大
臣。道家。右大臣ニ任シ。大納言。藤原公房。内大臣ト
十九
四年。三月。坊門前内大臣。藤原信清。薨ス。六月。宋

朝ノ陳和卿來テ。鎌倉ニ赴キ。實朝自請ス。同月。實
朝中納言ニ任ス。九月。義時廣元ヲ以テ。實朝年ヲカ
クシテ。官位シキリニ昇進スルコトヲ諫ル。實朝許容
セス。十一月。實朝渡唐ノ志アリ。陳和卿ニ命ジ。大船
ヲ造シ。明年其船成就シケルニヨリテ。由比浦へ出テ
試ニ漕ケレハ。舟重シテ浮コトアタハス。遂ニ朽損シ又
五年正月。平野大原野へ行幸。六月。阿闍梨公曉。
鶴岳ノ別當ニ補セラレ。十一月。北野松尾行幸。
十二月。北條右京大夫。義時陸奥守ニ任セラレ。時房
相摸守ニ遷リ任ス。同月。西園寺大納言藤原公
經。後鳥羽院ノ勅勘ヲ蒙リ。出仕ヲヤメラル。程十ク
免サル

六年正月。實朝大納言ニ任ス。二月。平政子入洛。熊
野參請時房從ノ。三月。實朝所望ニヨリテ。左大將
ヲ兼シメラル。其郎從足立景盛出羽守ニ任セラ
レ。秋田城。又ト号ス。同月。實朝左馬寮御監ヲ
兼任セラレ。勅使少外記中原重繼。鎌倉へ遣サレ。宣
旨ヲ授ク。實朝喜テ。勅使ニ馬ニ疋。砂金百兩ヲアタ
ス。北條泰時讚岐守ニ任セラレ。泰時辭退ス。四月。
平政子鎌倉へ歸ル。在京ノ間從三位ニ叙セラレ。後鳥
羽院ノ上皇。政子ニ對面アルヘトテ召ケレドモ。辭シテ
院參セス。六月。實朝拜賀ノタメ。鶴岳へ參宮。其車
等ノ調度。勅使内藏頭忠綱。後鳥羽上皇ノ仰ヲ
受テ持來リ。又扈從ノ雲客數輩。并隨身等モ。京

都ヨリ鎌倉へ遣サル七月實朝侍所司五人ヲ定ラ
ル泰時其隨上タリ 八月。中殿倭歌ノ御會アリ
十月三條内大臣藤原公房太政大臣ニ任ス實朝
内大臣ニ任ス左大將如元平政子ニ從二位ヲ授ラ
ル。二位禪尼ト號ス 十一月左大臣藤原良輔薨ス
後京極良經ノ弟ナリ 十二月右大臣藤原道家
左大臣ニ任ス實朝右大臣ニ任ス大納言藤原家道内
大臣ニ任ス後鳥羽上皇ノ仰ニテ大臣拜賀ノ諾具ヲ
實朝ニタテソル坊門大納言藤原忠清子信清西園寺
中納言藤原實氏 公經子 參議藤原國通等并雲客
數輩扈從ノタメニ鎌倉へ赴ク
兼久元年正月二十七日夜實朝大臣拜賀ノ爲ニ

鶴岳へ奉宮其出ル時ニソゾミテ廣元入道覺阿奉テ
束帶ノ下ニ版卷ヲ著セラレヘト申ス實朝許容セ
ス其行列次第嚴重ナリ前驅隨身公卿殿上人扈
從ニ隨兵十騎アリ義時御劔ノ役タリシガ俄ニ違例
ニテ劔ヲ文章博士仲章ニユヅリテ皈ル實朝神拜
畢テ退出ノ時石階ノ邊ニテ當宮ノ別當公曉詐テ
女ノ形ノマ子ヲシウカヒテチ。刀ヲ拔テ實朝ノ頭ヲ
切テ父ノ仇ヲ復フト呼リ。又一カニテ仲章ヲ打切ル
己ハ兼テ義時カ劔ノ役タルコトヲ聞及テ其俄ニ
皈コトヲシラス夜中ユヘ其面ヲ見分ス義時ヲ斬
ト思テ誤テ仲章ヲ斬殺セリ供奉ノ武士等大ニ駭
トモ俄ノコトナレハ惘然タリ公曉ハ雪下ノ坊ニカク

レテニ浦義村ヲ頼三。將軍タラシコトヲ望ム義村
急義時ニ告ク。即長尾定景ヲ遣シテ。公曉ヲ誅ス。
實朝建仁二年ヨリ將軍ニ任ジ。今年ニテ。治世十
七年。薨スル時二十八歳。頼朝頼家實朝ヲ二代將
軍ト号ス。其間合テ四十年ナリ。公曉ハ四歳ニテ
父頼家ニヲクシ。今歳十九ナリ。二月平政子義
時相談ニテ。信濃守行光ヲ上洛セシメ。後鳥羽上
皇ノ御子。六條宮雅成。冷泉宮頼仁二人ノ内ヲ鎌
倉ノ主君トセント望ム。上皇許容セス。三月内大
臣藤原家通右大臣ニ任ス。又我大納言源通光内
大臣ニ任ス。六月政子義時カ所望ニヨリ左大臣
藤原道家ノ二男ヲ頼經ヲ鎌倉ヘ遣サル。相模守北
條時房上洛シ。頼經ヲ具シテ鎌倉ヘ赴テ。主君ト仰
テ。武臣皆拜趨ス。頼經纔ニ二歳ナレバ。政子名代ト
シテ政ヲキク。天下ノ事大小トナク皆義時カハカ
ラヒナリ。頼朝ノ姊中納言能保ニ嫁シテ。其ウメ
ル娘後京極良經ニ嫁シテ。道家ヲ生リ。道家西
園寺公經ノ娘ヲ娶テ。頼經ヲウメリ。此由緒ニヨリ。
少シ頼朝ノユカリナリトテ。頼經ヲ迎ヘタリトキコ
ユ此ヨシニヨリテ。西園寺北條ト相睦シ。此比駿
河國ニ阿野冠者時元ト云ル者アリ。頼朝ノ姪ニテ。
全成ノ子ナルニヨリテ。関東ノ主タラシトノ志ア
ルヨシキコヘケレバ。義時武士ヲ遣シテ。時元ヲ殺ス
七月大内ノ守護源頼茂後鳥羽ノ上皇ノ勅勘ヲ

在代一覽五

十六

蒙ル官兵ヲ遣シ追捕セラル。頼茂仁壽殿ニ馳入
火ヲ放テ自害。朝廷ノ重寶多ク灰燼トナル。頼茂
ハ頼政カ孫ナリ。同月鎌倉ニ小侍所ヲ置。義時カ
三男重時ヲ別當トス。九月鎌倉ニ位。尼平政子
伊賀光宗ヲ以テ。政所ノ執事トス。光宗ハ義時カ妻
ノ弟ナリ。光宗カ兄伊賀判官光季ハ京都ノ守護
タリ。兄弟共ニ威ヲ都鄙ニ振ヘリ。

二年正月。右清水賀茂ヘ行幸。今年鎌倉數度火災
地震風雨。武士ノ家皆崩レ倒ル。

三年三月。参議藤原雅經卒。是飛鳥井ノ祖ニテ。
倭歌蹴鞠ノ家ナリ。四月。後鳥羽上皇鎌倉ヲ滅
サント思召立コトアリ。上皇在位ノ時ヨリ。常ニ武家

權ヲ執テ。王威ノ衰ルヲ憤リ。位ヲ讓テ。後倭歌
管絃ノ暇ニハ武藝ヲ專ニ習ハセ。院中ニ北面ノ者ノ外
ニ西面ノ侍ヲ置テ。武士ヲ召アツム。實朝薨シテ後。
義時其家臣トシテ。天下ヲホシヒ。ニスルヲ怒リ。夕
トフトコロニ。信濃國ノ士。仁科盛遠ト云モノ。院ノ西
面ニ召シケレバ。義時其領地ヲ没収ス。上皇攝州倉
橋庄ヲ白拍子龜菊ニ賜フ。其地頭龜菊ヲアサトル。
義時ニ仰セテ。其地頭ヲ改易セシム。義時從ヒ奉ラス。
上皇彌逆鱗アリテ。其比在京シケル武士。三浦胤
義ガ許ヘ北面。藤原秀康ヲ遣シ。義時追討ノ事
ヲ議セラル。胤義同心ス。コレニヨリテ。密ニ軍兵ヲ召
アツメラル。土御門院ハ此事無用ノ由諫ラル。主上ハ

同心シタニテ 同月主上位ヲ御子懷成ニ讓ル時四
歳關白藤原家實ヲヤメテ。左大臣道家攝政ス。此
時後鳥羽院ヲ一院トモ本院トモ申シ土御門ヲ中院
ト申シ順德ヲ新院ト申ス本院新院心ヲ一ツニシテ。
義時追討ノ事ヲ議セラル。五月後鳥羽院高陽
院ニ遷御アリテ西園寺右大將藤原公經并其子
中納言實氏ヲ召テ弓場殿ニ押籠ラル。此父子義時
ト親キニヨリテナリ。伊賀判官光季ヲ召ケレトモ泰
ニス。胤義秀康佐々木廣綱大江親廣等在京ノ
武士ヲ遣シ攻ラレケシ。光季防戰テ自害^シコニテ
テ。中納言藤原光親奉テ院宣ヲ書テ。五畿七
道へ義時討ヘキノ旨ヲ觸遣サル。關東へハ押松ト云

者御使タリ。胤義私ニ使者ヲ以テ。其兄三浦公義
村ガ許へ義時討ヘキノ由ヲ申ツカハス。義村同心セズ。
胤義ガ状ヲ義時ニ示ス。押松モ尋出サレテ捕ラル。
即チ二位禪尼ノ前ニテ。義時并廣元善信評議シ。
京都へ軍兵ヲ指遣ス。武藏守泰時相模守時房并
足利義氏三浦義村等十萬騎東海道ヨリ上ル。武田
小笠原小山結城五萬騎ニテ。東山道ヨリ上ル。義時
ガ次男朝時等四萬騎ニテ。北陸道ヨリ上ル。
六月泰時時房路次ノ官軍ヲ破リ。義濃尾張ニ到ル。
官軍ヲ分テ。宇治勢多所々へ遣シ防ガルトイヘトモ。
東兵強ニテ。泰時ハ宇治ヨリ入洛シ時房ハ勢多ヨリ
攻入ケシ。胤義并官軍ニ從ル武士佐々木廣綱以下。

或ハ討シ或ハ自害或ハ庄捕シテ殺サル光祿并ニ大納言藤原忠信中納言藤原有雅藤原宗行以下近習ノ廷臣捕シテ関東へ下向路次ニテ殺サル忠信ハカリ。實朝ノ縁者タルニヨリテ赦サル。泰時時房六波羅ノ辭ニ居テ賞罰ヲ沙汰ス。是兩六波羅ノ初ナリ。

七月新帝懷成位ラスヘリテ。九條院へシリゾカル。同月泰時カ嫡子時氏奉行ニテ。後鳥羽院ハ隱岐國へ遷サレタマフ。順德院ヲハ佐渡國へ遷シ奉ル。後鳥羽院ノ御子雅成親王但馬ノ國へ流サレ。頼仁親王備前ノ國へ流サル。土御門院ハ今度ノ事ヲ諫メラレシカ。其二、都一置申ヘキト沙汰アリシカトモ。是モ土佐ノ國へ遷シ奉ル。年ヲ經テ阿波國へ遷幸セラレ。順德院

ノ年号。建曆二年。建保六年。兼久三年。合テ在位十一年。懷成ハ讓リヲウケフルトイヘドモ。イマダ即位ノ義式行ス。纔三月アミリニテ。位ヲスヘルユヘ九條ノ廢帝ト号シテ。王代ノ數ニ入ス。

八十五代

後堀河院 諱ハ茂仁高倉院ノ孫守貞親王ノ子ナリ。守貞ハ後鳥羽ノ兄ナレドモ。後白河ノ心ニ叶ハサルニヨリテ帝位ニツカズ。持明院ノ宮トテ。年月ヲ送ラル。兼久ノ亂後。義時カカラヒニテ。兼久三年七月。茂仁ヲ即位セシム。母ハ藤原陳子。中納言基家が娘ナリ。此帝即位ノ時纔十歳也。故ニ父守貞ニ太上天皇ノ尊号ヲ奉テ。政ヲキカシム。攝政道家ハ鎌倉ノ頼經ノ

父ナレトモ順徳院ノ舅ナルヨリテ是ヲ改メ近衛家
實攝政トナル何事モ皆義時ガ也。泰時時房京
都ヲ守護ス。同年冬右大臣藤原家通左大臣ニ轉
シ德大寺ノ公繼再右大臣ニ任シ西園寺ノ公經内大臣
ニ任ス。攝政家實太政大臣ニ任ス。

貞應元年正月主上元服。二月義時大追物ヲ興
行シ賴經ヲシテ見セシム。四月家實太政大臣ヲ
辞ス。八月西園寺内大臣公經太政大臣ニ任ス。其
子中納言實氏右大將ヲ兼タリ。北條ガ執カヲカリ
テ西園寺コレヨリ繁昌ス。同月大納言藤原師經
内大臣トナル。

二年二月二條太政大臣公房ノ娘有子ヲ中宮ト

ス。五月太上天皇守貞崩ス。後高倉院ト謚ス。

十月家實攝政ヲ辞シテ關白トナル。

元仁元年二月高麗國ノ漂船越後國ニ流寄ル其船
中ノ道具ヲ鎌倉ヘ送ル。六月十三日北條義時病
死。歳六十二。或說ニ八頃死トモ云。又異說ニ近習ノワ
カキ者ニ突殺サレタリトモ云リ。

元久二年ヨリ以來執權タル二十二年及ヘリ。此時泰
時在京シケルカ急キ時房ト同道下向ス。義時カ
妻ノ弟伊賀ノ光宗等密ニ三浦義村ヲ語ラヒ賴
經ヲ押ノケ。泰時ヲ殺シテ。義村カ壻宰相中將藤
原實雅ヲ鎌倉ノ主トシ。義時當腹ノ子政村ヲ執權
トセントカシ一位禪尼ノハカラヒニテ。泰時時房ヲ兩

執權トシ。夜中潜ニ自ラ義村カ宅へ越テ。義村ヲ
シカリ教訓シ。泰時ト一所ニ居シメ。飯宅セシメスヨ、
ニオヒテ。實雅ヲ飯洛セシメ。遂ニ越前へ流ス。義時ガ
妻ヲ伊豆ノ國へ流シ。光宗ヲ信濃へ流シ。其弟二人
ヲ鎮西へ流ス。義村カハルコトナシ。政村カ泰時ト兄
弟ノ間替ルコトナシ。藤原行盛ヲ光宗ニ代テ政所
ノ執事トス。尾藤景綱ヲ泰時ガ家令トス。義時遺
跡泰時ハワツカ取テ。多諸弟ニ配分ス。泰時ガ子時氏
ト。時房ガ子時盛ヲ京へ遣。六波羅ニ居シム。
八月近衛左大臣家通薨ス。家實ノ子ナリ。十二月。
右大臣公繼左ニ轉シ。内大臣師經右大臣トナル。大納
言藤原良平内大臣トナル。師經公賴實ガ子ナリ。

良平公良經ガ弟ナリ

喜祿元年六月。大江廣元入道覺阿死ス。年八十三。賴
朝ヨリ以來武家政務ノ談合人也。七月二位。禪尼
平政子法名如實逝。去年六十九。實朝薨後政ヲ聽
ユ。俗ニ尼將軍ト号ス。九月天台座主前大僧正慈
圓寂ス。慈鎮ト謚ス。法性寺関白忠通ノ子ニテ。倭歌ニ
名ヲ得タル僧ナリ。十一月鎌倉ノ賴經元服時八歳
泰時輔佐トシ。心ヲ政道ニツクセリ。十二月石清水
賀茂行幸。
二年正月賴經征夷大將軍ニ補。正五位下ニ叙。右少
將ニ任ス。五月陸奥國ニテ。禪師公曉十名乗テ。叛逆ス
ル者アリ。結城朝廣等コレヲ捕テ誅ス。

安貞元年正月。德大寺左大臣藤原公繼薨。年五十二。二月。関白家實娘長子入内。中宮トナル。前ノ中宮有子ハ退ラレテ。安嘉茹院ト号ス。有子ハ主上ヨリ年ニサリナレトモ。主上ト甚ムツミ。長子ハ今九歳ナルユヘ。主上思フ有子ニ通ゼラルト云トモ。御心ノミナラス。四月。藤原師經右大臣ヲ辞ス。内大臣良平左大臣ニ任シ。大納言藤原教實右大臣ニ任シ。大納言藤原兼經内大臣ニ任ス。教實公前攝政道家カ長子ナリ。兼經公家實ガ子ナリ。六月。春時ガ次男時實高橋某ニ殺サル。年十六。高橋モ生勵テ誅セラレ。二年十二月。近衛家實關白ヲヤメテ。前攝政道

家関白トナル。光明峯寺ト号スルユヘ。峯殿トモ云リ。

寛喜元年四月中宮藤長子ヲ退テ。鷹司院ト号シ。関白道家ガ娘樽子入内シテ中宮トナル。其妹全子内侍督トナル。

二年。北條駿河守重時上洛。六波羅ニ居ル。四月。北條修理亮時氏鎌倉ヘ下向。六月。北條時氏病死。

年廿八。十二月。故頼家ノ娘號^{スル}竹御所ヲ頼經ノ御臺前トス。頼經ヨリ年ニサレコト十五歳ナリ。

同月。松殿前関白基房薨ス。歳八十六。

三年二月。頼經從四位ニ叙シ。三月。右中将ニ任シ。四月。正四位ニ叙ス。右大臣藤原教實左ニ轉シ。内大臣

兼繼右大臣二任。大納言實氏内大臣トナル
七月。道家関白ヲ其嫡子左大臣教實ニ譲ル。道
家ヲ太殿ト号ス。十月。土御門院阿波國ニテ崩
ス。年三十七。十二月。西園寺太政大臣公經落飾ス
准三宮ノ宣旨ヲ蒙ル。

貞永元年正月。參議藤原定家中納言ニ任ス
同日。高雄僧高辨寂ス。明惠上人是也。二月。賴經
從三位ニ叙ス。六月。中納言藤原定家ニ勅シテ。新
勅撰倭歌集ヲ撰シム。七月。泰時并時房成敗式
目五十條ヲ定ム。泰時專政道ヲ務テ私十キユヘ
四海無事ナリ。十一月。諸國饑饉。泰時米九千石
ヲ民ニ畀テ賑救ス。同日。主上位ヲ太子秀仁ニ

讓ル。太上天皇ノ尊号ヲ蒙ル。年号貞應二年。

元仁一年。嘉祿二年。安貞二年。寬喜二年。貞永一年。
合テ在位十一年。

八十六代

四條院 諱ハ秀仁。後堀河院ノ太子ナリ。母公深壁門
院藤原ノ尊子。攝政左大臣道家ノ娘ナリ。寬喜三
年二月。誕生。貞永元年十月。讓リヲウケテ即位。時
二二歳。道家ノ嫡子関白教實攝政。後堀河院政ヲ
院中ニテ聽メストイヘトモ。道家外祖タルニヨリテ威
ヲ振ヘリ。攝政教實モ。鎌倉ノ將軍賴經モ。皆道家
ノ子ナリ。其上教實ノ弟良實實經モ。相繼テ昇進
ス。近衛ノ右大臣兼經。道家ノ婿ナリ。仁和寺御室

法助叡山ノ座主惠源ニ井寺ノ長吏行昭モ道家ノ子ナリ。仁和寺ヘ公皇子ナラスレテ入室ス。凡例コレヲ始トス。西園寺前相國公經ハ道家ノ舅ナリ。故ニ朝廷ノ權道家公經ニアリ。レカレトモ皆北條泰時ガハカラヒナリ。

天福元年正月頼經權中納言ニ任ス。五月近衛前攝政基通薨ス。歳七十四。普賢寺ト号ス。

九月藻壁門院崩ス。歳二十五。文曆元年三月泰時カ嫡孫經時元服。頼經自ラ加冠タリ。

五月九條廢帝崩ス。年十七。八月後堀河院崩ス。歳二十三。コレヨリ道家公經彌次ニ事ヲ行ヘリ。十二月頼經正三位ニ叙ス。

嘉禎元年三月攝政教實薨ス。歳二十六。今ノ九條殿ハゴノ末ナリ。道家再攝政トナル。四月禪僧圓爾宋國ヘ入テ。徑山無準ニ逢テ受法。十月近衛

右大臣兼經左ニ轉シ。西園寺内大臣實氏右大臣ニ任シ。大納言藤原良實内大臣ニ任ス。十一月

頼經從二位ニ叙ス。十二月石清水神人春日ノ神人ヲ傷リ。奈良大衆大ニ起テ。神輿ヲ捧テ上

洛北條重時士卒ヲ遣シテ此ヲ防。又使ヲツカハシテ宥ケレハ。神輿木津河ヨリ歸座。此間ハ道家ヲ始藤

原氏ノ人參内セズ。二年北條泰時從五位下ニ叙ス。六月實氏右大

臣ヲ辞ス。良實右大臣トナル。久我大納言源定通

臣ヲ辞ス。良實右大臣トナル。久我大納言源定通

内大臣トナル 七月頼經正二位ニ叙ス 十月奈良ノ衆徒公家ヘウラミアリテ擊起シテ城ヲ構フル六波羅ノ重時コレヲスカセトモ同心セス泰時怒テ興福寺領ヲ押ケルバ惡僧退散スコレニヨリテ寺領ヲ復ス

三年二月道家攝政ヲ其督近衛左大臣兼經ニ讓ル 四月從二位藤原家隆卒ス歳八十猶間中納言光隆ガ子ニテ定家ト倭歌ヲ以テ並稱セラル 五月石清水行幸 八月頼經新館ヲ六波羅ニ造ル 十一月西園寺ノ公經北山ノ館へ行幸 十二月源定通内大臣ヲ辞ス 大納言藤原基家内大臣トナル道家弟ナリ

曆仁元年正月頼經上洛泰時諸國ノ武士ヲ率テ供奉ス藤原行光鎌倉ノ留守タリ 二月頼經京著六波羅ノ館ニ任ス道家公經實氏等親類參會 翌ニ其館ヘ往來頼經參内右衛門督ヲ兼檢非違使ノ別當ニ任ス 三月頼經大納言ニ任ス 同日春日行幸 四月頼經大納言ヲ辭ス 同月道家准三三宮即洛飾 六月頼經春日請 七月前左大臣藤原良平太政大臣ニ任ス右大臣良實左ニ轉シニ條大納言藤原實親右大臣ニ任ス 大炊御門大納言藤原家嗣内大臣ニ任ス中納言藤原爲家侍從ヲ兼レ公爲家ハ定家ガ子ナリ 同月頼經石清水參請 八月頼經賀茂祇園北野吉田ヘ參請 十月松殿前

攝政藤原師家薨ス。同月、賴經鎌倉へ皈ル

延應元年正月、太政大臣良平落飾、歳五十六。二月、後鳥羽院、隱岐國ニテ崩ス、歳六十。

仁治元年二月、勅使大納言藤原公相、伊勢へ參宮。公相、公經ノ孫、實氏ノ子ナリ。九月、三條實親、右大臣ヲ辭ス。

十月、大炊御門家嗣、内大臣ヲ辭ス。大納言實經、右大臣ニ任レ、衣笠、大納言藤原家良、内大臣ニ任ス。家良、近衛ヨリワカレタル家ナリ。十一月、賴經、武士ニ命ジテ、京都鎌倉、篝ヲ燒テ、辻々ニ警固セシム。十二月、攝政兼經、太政大臣トシテ、今年、北條時房卒ス、歳六十六。

二年正月、主上元服、歳十一。攝政兼經、加冠タリ。左大臣良實、理髮タリ。八月、藤原定家、卒、歳八十一。

十二月、道家孫、故攝政教實娘、彦子、九歳ニテ、女御トシテ、道家彌威ヲ振フ。今年、僧圓爾、宋ヨリ歸朝。三年正月、主上崩ス、年十二。泉涌寺ニテ葬禮アリ。此以後帝王、此寺ニテ葬ルコト多シ。今年、號天福一年。文曆一年。嘉禎三年。曆仁一年。延應一年。仁治三年。合テ在位十年。

八十七代

後嵯峨院 諱邦仁、土御門院ノ第二子也。母、源通子、宰相中將通宗ガ娘ナリ。承久ノ亂ニワヅカニ歳十

リシヲ、土御門、大納言源通方、外戚ノ親ニアルニヨリテ、養育シ奉ル。十八歳ノ時、通方卒スル故ニ、祖母

リテ、養育シ奉ル。十八歳ノ時、通方卒スル故ニ、祖母

リテ、養育シ奉ル。十八歳ノ時、通方卒スル故ニ、祖母

リテ、養育シ奉ル。十八歳ノ時、通方卒スル故ニ、祖母

リテ、養育シ奉ル。十八歳ノ時、通方卒スル故ニ、祖母

承明門院ノ許ニウツリカスカナル體ニテヲハレマス。
仁治三年正月四條院崩レテ御子モナク御連枝
モナケレバ誰カ繼體ノ君タルヘキト沙汰アリ。順德
院此時佐渡國ニ下恙ナクヲハレシ。其御子忠成京ニ
下レクニ藤原道家ノ外孫ナレバ是ヲ位ニツケ申。道
家相替ラス朝廷ヲ我ニニセント思ヒ關東へ談セラル
泰時承引セズ秋田城ニ義景ヲ使トシテ上洛セシメ土
御門院ノ御子ヲ御位ニ即申ヘシト云合々義景若某
京著以前ニ順德院ノ御子即位レタマハ如何スヘキト
云泰時聞テ汝ヲ遣スウヘ何ノ憚カアルヘキ。惟ヲ口
レテ土御門院ノ御子ヲ即位セシムヘシト云承久ニ土
御門院ノ義時追討ノ事ヲ諫申サル故ナルヘシ。義景急

入洛シ承明門院ノ御所へ參テ泰時カ申ス旨ヲ申ス。
順德院ノ母脩明門院モ道家モ大ニ驚クサレトモ泰時
カ下知ニテ義景申ウヘ公異儀ニ及ス。同月二十日邦
仁元服年二十三。左大臣藤原良實加冠タリ。左中
辨定嗣理髮タリ。二月政始アリ。三月御即位。良實
關白トナル道家ノ二男ニテ。二條殿是ヨリ始ル。六月
西園寺右大臣實氏娘姑子入内女御トナル。歳十八。
同月十五日北條武藏守泰時卒ス。歳六十。元仁元
年ヨリ今年ニテ。執權十九年。政道私ナク。正路ニ沙
汰シケルユヘ公家武家コレニ倚頼シテ天下無事ナリ。
嫡孫左近將監經時其跡ヲ續テ將軍頼經ノ執權
タリ。八月女御姑子中宮トナル。九月順德院佐

渡ニテ崩ス。四十六。十月。御母通子ニ皇后ノ位ヲ贈
ラレ。外祖通宗ニ左大臣從一位ヲ贈ス。十二月。近
衛前攝政家實薨ス。年六十四。

寛元元年六月。中宮皇子誕生。七夜ノ間ノ儀式。最
嚴重ナリ。即太子ニ立ラル。西園寺實氏。外祖ノ勢ヲ
得テ道家良實父子ト共ニ朝政ヲ執リ。廷臣ノ顯達
ナルモノ大方此二人ノ好ニナリ。實氏ノ父公經入道モ
猶存生ニテ。北山ノ山莊ニ山ヲツキ。サシクノ木石ヲア
ツメ。池ヲホリ。亭ヲ立。遊慰メリ。又西園寺ノ御堂ヲ
建テ。傍ニ寺院ヲツクリナラフ。道長公ノ法成寺ノ御
堂ニモ推ナラヒテ。其景氣ハ猶一サレリ。主上同腹ノ兄。
圓滿院仁助法親王。生レツキサカレ。名主上トシ。ミケレ

ハ僧中ノ事ヲ。一向ニカフニ申サル。ノニナラズ。朝政
ニモツサハレリ。七月。北條經時武藏守ニ任ス。十
月。西園寺入道相國公經。熊野詣。次男大納言實雄。
嫡孫大納言公相。其外大納言爲家等ノ公卿數輩。
殿上入三十人。バカリ扈從。殆御幸ノ行糺ニトシ。
十一月。土御門院十三年忌ノ追善ヲ修セラル。
十二月朔日。石清水行幸。關白良實。左大將藤原忠
家道宗孫。右大將藤原實基德大寺。騎馬ニテ供奉。其
行糺嚴重ナリ。五月。加賀茂行幸。今年道家東福寺ヲ
建テ。圓爾ヲ開山トス。聖一國師長ナリ。
二年春。鎌倉ニ天變多シ。將軍賴經サシクノ祈念ヲ
行ル。四月。賴經ノ子賴嗣。六歳ニテ元服。加冠理髮共

二經時役之ヲ 同月。賴經執奏シテ。征夷大將軍ヲ
賴嗣ニ讓リ。從五位上ニ叙シ。右少將ニ任ゼラル。賴經ハ
二歳ニテ。鎌倉へ下向シ。九歳ニテ將軍ニ任シ。在職十八
年ニテ。賴嗣ニ讓補ス。天變ノ慎ニテ。世ヲ讓ルト云トモ。
實ハ北條威ヲホシ。二セシメ。幼弱ノ内ハコレヲ
ガメ。成長ニ及テハコレヲレリゾケ。幼主ヲ以テ其代リ
トスルナルヘシ 六月。關白良實左大臣ヲ辭ス。其弟
右大臣實經左ニ轉シ。内大臣藤原兼平右大臣ト
ナル。大納言忠家内大臣ニ任ス 八月。西園寺入道
相國公經基ス。歳七十一 三年正月。鎌倉ニ客星數度出現。遠江守朝
時死ス。歳五十二。義時ガ次男ナリ。其子孫ヲ

名越ト號ス 七月。賴經落飾ス 同月。北條
經時カ妹檜皮姫ヲ。賴嗣ノ室トス。賴嗣ハ七歳ニテ。姫ハ
十六歳ナリ

四年正月。主上位ヲ太子久仁ニ讓ル。太上天皇ノ尊号
ヲ奉ラル。年号寛元 在位四年

八十八代

後深草院 諱久仁。後嵯峨院第二ノ子也。母ハ中宮藤
原姞子。西園寺實氏カ娘ナリ。寛元元年ニ生テ。同四
年正月即位。時四歳。政務ハ後嵯峨上皇院中ニテ沙汰
シタメフ。實氏外祖ノ勢ニテ。北條ト交ヲ修シ。權ヲ專
ニセリ。道家モ猶存生ニテ。實氏ト同政ヲ行フ。關白
良實ハ父道家ト不快ニヨリテ職ヲヤメラシ。其弟左大

臣實經攝政ス是ハ一條殿ノ初ナリ 三月實氏太政大臣ニ任ス 同月前參議菅原爲長卒ス歲八十九 同月北條經時病アリテ執權ヲ其弟左近將監時頼ニ讓ル 四月經時落飾 閏四月朔日經時卒ス歲三十三 仁治二年ヨリ執權今在ニテ纔五年ナリ 五月鎌倉騷動ス是ハ北條越後守光時ト云モノアリ 義時カ孫朝時ガ子トリ 頼經ニ近習シケルユヘニ時頼ヲ討ケ執權タラントハカル 忽チ露頭シ 光時所領沒収セラレ 伊豆ヘ流サル 其黨皆流罪セラレ 光時カ弟時章等ハ異心ナキユヘ名越ノ家ヲ相續スコレヨリ時頼遂ニ天下ノ權ヲ執リテ 將軍頼嗣ヲ扶翼ス 六月頼經營中ヲ出テ 北條時盛カ佐々木亭ニ居ル

七月十一日頼經鎌倉ヲ出テ歸洛 二十八日京著シ 六波羅ニ住ス 路次相從フ武士皆鎌倉ヘ歸ル 三浦光村一人シキリニ餘波ヲ惜ミ落涙シ 今一度鎌倉ヘ歸レント云テ退出ス 光村ハ義村カ次男 泰村カ弟ナリ 幼少ヨリ頼經ノ近臣ナリ 頼經上洛ノ事ハ經時ガ時ヨリ沙汰アリト云トモ 光時カ事ニヨリテ 時頼急ニハカラヒケルナルベシ 三浦泰村ハ累世ノ大名ナリ 其上泰時ガ塔ナリニナリテ 政務ヲ相談セラル 秋田城ハ義景モ時頼ニシタレキユヘ 泰村ト威ヲ争フ此時北條重時又在京シ 政事ニ鍛鍊ス 鎌倉ヘ呼下シ諸事ヲ談スヘシト 時頼申サルト云トモ 泰村然ルヘカラスト云ニヨリテ 暫クサシヲク 泰村ハ時頼ニシタレト云ト

モ光村以下ノ一族ハ頼經ヲ慕フ心ヲカク。且驕慢ノ
アリ。害心ヲサレサメリ。十二月實氏太政大臣
ヲ辭ス。前内大臣源通光太政大臣ニ任ス。關白實經
左大臣ヲ辭ス。右大臣藤原兼平左大臣ニ任ス。内大
臣忠家右大臣タリ。大納言實基内大臣トナル。將軍
頼嗣從四位下ニ叙ス。少將ハ元ノコトニ

寶治元年正月。一條實經政ヲヤメテ近衛兼經又攝
政ス。二月頼嗣時頼大追物ヲ興行ス。四月秋田
城ハ義景カ父景盛入道覺地年來高野ニアリケルガ
鎌倉へ來テ時頼ニ對談シ。密ニ三浦泰村ヲ滅サシコト
ヲ謀ルコトヨリテ鎌倉騷動然トモ泰村ガ罪イニダ
アラハレズ。五月時頼妹ノ忌アルニヨリテ泰村カ

宅ニ寄宿ス。夜中鐵腹卷ノ聲レケルニヨリテ。潛ニ
本宅へ歸ル。此時光村等逆心ノ企アリト云トモ泰村
コレヲサヘ時頼へ陳謝ス。六月時頼泰村ト和睦ニ誓
詞ヲ遣ス。覺地コレヲ聞テ。今度和平アルハ彼一族彌
驕ルベシトテ。此次テニ勝負ヲ決セヨトテ。義景カ子泰
盛等一族黨類ヲ遣ニ泰村ヲ攻テ泰村平和ステテ。請
諾ノ上ニヨハイカニト驚テ防戰ス。時頼コレヲ聞テ。ス
テニ歸服レテ。又合戰ヲ起ス上。宥ヘキニアラストテ。北
條實時義時孫實泰子ヲレニ幕府ヲ守レシメ。北條時定時頼弟
大將トレテ。三浦ヲ攻シ合戰半ナル時泰村ガ宅ニ火
ヲ放ケレハ泰村一族ヲ率テ。法華堂へ赴キ。光村等
ヲレテ。レバラク防戰テ。力盡ケレハ泰村光村以下

一族并ニ其黨類毛利西阿關政泰以下二百七十
餘人頼朝ノ影前ニ並居テ自害ス從兵五百餘人皆
死ス其外ノ餘黨ハ皆所々ニテ討レヌ時頼此趣ヲ京
都ニ申遣シ重時ヲ以テ西園寺實氏へ申ヌ此比道
家公前將軍頼經上洛ノ事ニヨリテ密ニ光村ニ約セ
ラレ趣アルニヨリテ關東トムツシカラス實氏ハ彌
北條ト交ヲ通セラル故ニ西園寺ノ威清華ニ秀テ
攝家ヲ輕ス 七月北條相模守重時六波羅ヨリ
鎌倉へ歸ル時頼カ招ニヨリテナリ時頼ス十八千諸事
ヲ談シ連署兩執權タリ重時相模守ヲ改テ陸奥
守ト號シ時頼相模守ト號ス重時カ一男長時ヲ
六波羅ニ居シメ畿内西國人成敗ヲ掌シム

二年正月十七日鴻通光太政大臣ヲ辭ス翌日薨
ス歳六十二 十月後嵯峨上皇宇治御幸紅葉ヲ
御覽此時國家ノ大事皆武家沙汰シヌルユ上皇ハ
處々へ御幸遊慰タマフ主上ハ猶幼マシ共兒戲ノ
三三ノ月日ヲ送リタマフ

建長元年二月開院内裏炎上 三月洛中過半内
祿

二年二月熊野御幸 四月藤原實基内大臣ヲ辭
ス久我大納言源真實内大臣ニ任ス 五月將軍頼
嗣帝範ヲ讀清原教隆侍讀タリ時頼眞觀政要ヲ
寫テ奉ル 十二月源真實内大臣ヲ辭ス大納言
藤原通長内大臣ニ任ス

三年七月。頼嗣從三位三叙。左中將二任ス。時頼正五位下ニ叙ス。閑院内裏造營ノ賞ナリ。十二月。佐々木氏信、武藤景頼等ヲ行法師ト云モノヲ生捕テ。時頼ニ獻ス。糾明シケル。前將軍頼經京都ニテ世ヲ亂シトスル企アリ。コレニヨリテ。其同類ノ關東ニアル者皆罪ニ行ハル。

四年二月。時頼重時。使者ヲ京都へ遣シ。後嵯峨上皇一ノ宮宗尊親王ヲ迎テ。鎌倉ノ主君トセント申ス。同月光明峯寺前攝政道家薨ス。歳六十一。此人頼經ノ父ナルニヨリテ。義時泰時カ代ニ武家モ重ジケル。ユヘ其威殆帝王ノコトクナリシカ。頼經上洛ノ後ハ北條ヲ恐ル志アリテ。三浦光村ニモ申合セラルコトアリ。

トナシサレトモ頼嗣ノ祖父ナルユヘ關東ヨリソノノ指置ケルニヤ。今了行カ事アヲハル。折節薨セラルユヘ疑ナキニアラス。武家ヨリ密ニカハラヒケルニヤ。イフカシ道家ノ公達并孫忠家。或ハ配流解官セララル。二條良實公ハカリカワルコトナシ。是ハ道家ト不和ナリケル故ナリ。二條殿ノ家説ニハ良實常ニ道家ノ北條ヲ怒テ世ヲ亂シトノ企アルヲ歎テ。時々諫ラル。ニヨリテ。道家怒テ。父子ムツマレカフス。時頼コレヲ知ルユヘ何ノ沙汰ニモ及ズ。一二月。一品中務卿宗尊親王出京。四月鎌倉ニ到著。征夷大將軍ニ任セラレ。時十三歳。或ハ十一歳トモ云リ。北條相模守時頼執權タリ。北條陸奥守重時連署ス。同月前將軍藤原頼嗣職

ヲヤメラレテ歸洛ス。寛元二年ヨリ。建長三年ニテ。治世八年ナリ。宗尊公親王タルニヨリ。仁公卿殿上ニ三輩近侍レテ。其儀式嚴重前代ニ越タリ。時頼等ガ崇敬モ彌増ナリ。前將軍ノ營ヲホキテ。新ニ御所ヲ造テ移レ奉ル。十月。近衛兼經攝政ヲ辭ス。其弟左大臣兼平攝政ス。是鷹司殿ノ始ナリ。是ヨリサキ道家ノ長男教實九條殿ヲ相續レ。次男良實二條殿ト號ス。三男實經一條殿ト號ス。今又近衛分テ鷹司トナル。是ヨリ五攝家ト稱ス。執柄ノ勢ヲ分シタメ。武家ヨリハカラヒケルニヤ。五年正月。主上元服。御歳十一ナリ。西園寺ノ一族外戚ノ勢ニヨリ。北條カ荷擔ユ。官位ホシヒ。二昇進

シ。前相國實氏カ長男大納言公相。其弟大納言公基ト相並テ左右大將トナリ。遂皆大臣ニ任ス。八月。越前永平寺開山道元寂ス。是日本ニテ曹洞宗ヲ弘ル始ナリ。十月。朝觀ノ行幸。此比後嵯峨上皇ハ鳥羽離宮ニヲワシテス。十一月。時頼建長寺ヲ造テ供養ス。宋朝僧道隆禪師タリ。道隆ヲ蘭溪ト號ス。大覺禪師是ナリ。日本ハ異國ノ禪僧來朝スルハ。道隆ヲ始トス。六年十一月。足利左馬頭義氏卒ス。是ハ義家ノ三男義國カ曾孫ナリ。義國ガ子二人。兄ヲ新田義重ト云。新田ノ祖ナリ。弟ヲ足利義康ト云フ。義康ガ子上總ハ義兼ハ。頼朝ト稱シテ。北條ニシタレ。義氏ハ時

政ガ外孫ナリカタク他人武士ニ准ガタキユ。北條モ
コレヲラモンス。尊氏ハ義氏ガ後胤ナリ。十二月宗尊。
河内守源親行ヲ召テ。源氏物語ヲ談セシム。政務ハ
皆時頼カ、ナレバ宗尊ハ倭歌蹴鞠ニテ年月ヲ送
ル

七年三日熊野御幸。二山檢校覺仁法親王先達。夕
リ親王ノ先達タルコト是ヲ如トス

康元元年三月。北條陸奥守重時職ヲ辭ス。其弟政
村其代トナリ。時頼ト連判。四月北條長時六波羅
ノ職ヲ辭ス。鎌倉へ歸ル。其弟時茂其代トシテ上洛。時
二十ニ歳ナリ。二人ハ皆重時ガ子ナリ。八月前將軍
藤原頼經京ニテ逝去。年二十九。十月前將軍藤原

頼嗣京ニテ逝去。年十八。十一月時頼執權ヲ北條武
藏守長時ニ讓リテ落飾。山内ニ退キ道崇ト号ス。最
明寺ト稱ス。時ニ三十歳同時。剃髮ノ者多シ。時頼ニ對
シ。戴心ナキコトコアラハスト云トモ。自由ノハヌラキニ
似タリトテ。出仕ヲヤメシム。時頼ガ子幼少ニハ。長時
ヲ名代トシ。政村ト連判セシム。然レトモ皆時頼カ
旨ヲウケスト云コトナシ

正嘉元年二月。西園寺前相國實氏ガ娘中宮ト
ナル。主上ノタメニ叔母ナレハ。齡モハルカニユエタリ。
同月時頼ガ家督時宗七歳ニテ元服。宗尊自ラ
加冠タリ。長時理髮タリ。三月後嵯峨上皇高野へ
御幸。七月兼明門院崩ス。歳八十七。土御門院ノ

母ナレ公主上ノ曾祖母ナリ

二年三月將軍宗尊親王來年上洛アルヘキ評定アリ
テ諸國ノ武士ニ相觸然トモ其事ヤ三ヌ

正元元年春疫癘飢饉人民多ク死ス十四五歳ハカリク
小兒アリテ京中ノ死人ヲ取食フ月ヲ經テ其行方

レレス 三月主上ノ御母大宮院西園寺花前ニテ一
切經供養アリ行幸御幸供養ノ翌日御遊フリ。

主上琵琶ヲ彈セラル 五月近衛前関白兼經薨ス
歳五十。因屋関白十号ス 十一月主上位ヲ御弟恒

仁ニ譲ル今ノ年ウツカ十七ナレハ御心ヨリラユラス。上皇
ノハカラヒナルヘシ年号寶治二年建長七年。康元一

年。正嘉二年。正元元年。在位合十三年

八十九代

龜山院

諱ハ恒仁。後嵯峨第六ノ子。後深草同腹ノ弟

ナリ。正嘉二年八月ニ東宮ニ立テ。正元元年十一月即
位。時十一歳。應為司太政大臣兼平関白タリ。後嵯峨

上皇院中ニテ政ヲレロシメス。一院ト申ス。後深草
院ヲハ新院ト申テ。富小路ノ御所ニマシニス

文應元年一月。故近衛兼經公ノ息女鎌倉へ下向。
最明寺時頼カ養子トナリ。宗尊親王ニ嫁ス

七月。僧日蓮鎌倉ニ到テ。時頼ニ對面ス。日蓮其黨
多クシテ。一宗ヲ開ケリ 十一月。西園寺前相國

實氏落飾常盤井入道ト号ス 十二月。山階右
大臣實雄カ娘入内年十六皇后トナル。實雄公實

氏が第ナリ

弘長元年二月西園寺左大臣公相が女入内中官トナル 三月公相左大臣ヲ辞ス。實雄左大臣トナル。近衛基平右大臣トナル。兼經子ナリ。三條公親内大臣トナル 四月兼平関白ヲ辞ス。三條前左大臣良實再関白トナル 六月故三浦義村が子律師良賢ト云モノ。謀叛ヲ企ケルヲ鎌倉ニテ生捕其同類ヲ尋求ム 十一月前陸奥守入道北條重時卒。歳六十四。極樂寺ト号ス。是義時ガ三男ナリ。其子孫赤橋ト号ス 十二月西園寺前左府公相太政大臣ニ任ス。主上新院ノ外舅ニテ。北條ノ累世ニタシミアルニヨリテ。當時ノ權貴

此一門ニアリ

二年正月。三條公親内大臣ヲ辞ス。鷹司基忠内大臣ニ任ス。兼平子 七月公相太政大臣ヲ辞ス 十一月二十八日。一向宗ノ開山範宴寂ス。歳九十一。親鸞是ナリ。日野家ノ一族ナリ 三年二月。後嵯峨ノ上皇。北山ノ龜山殿ニ御座アリ。主上行幸。新院御幸。倭歌御會御遊アリ 同月鎌倉君ニテ。北條政村十日子首倭歌ノ會ヲ興行ス。將軍宗尊倭歌ニ長セルユヘ。政村モ政務ノ暇スキコノミケルニヤ 三月藤原實雄左大臣ヲ辞ス 八月。一條前攝政實經左大臣ニ再任ス。先例メツラレキ事ナリ 十月將軍宗尊上洛ノ沙汰了

リシカ。又故マリテ止ム。十一月二十二日。正五位下相模守北條時頼入道道崇最明寺ニ於テ卒ス。歳三十七ナリ。宗尊哀傷ノ倭歌ヲ詠セラハル。勅使右少辨經任鎌倉ニ赴テ吊ス。時頼ハ寛元四年ヨリ。康元元年マテ。執權十一年。落飾ノ後七年。人口十八年。政道正ニヨリテ。天下無為ナリ。俗説時頼剃髮ノ後。潜ニ鎌倉ヲ出テ。微服ニ諸國ヲ巡檢シ。國守ノ善悪。人民ノ艱苦ヲ窺見ト云リ。サレドモ東監ニハ見ヘ侍ラス。サリナガラ。其間東監年月不足ノトコロアリバ。若其内ニモヤアリケン。又使者ヲツカハシ。國々ノ事ヲウカヒケルニヤ。イブカシ。北條八代ノ政。泰時時頼ヲサカンナリトス。時頼ガ長男式部丞時輔。京都ニ居シメ。北條時茂ト。兩六波羅タリ。次男左馬頭時宗十三歳。家督ヲ繼テ執權タリ。相模守ニ任ズ。政村長時コレヲ輔翼ス。時宗ガ舅秋田城。以泰盛モ權勢アリ。

文永元年三月。延曆寺炎上。是ハ天王寺別當ヲ。三井寺ニ付ラル。コトヲ憤テ。山僧手ツカラ焼ケルトゾ。五月。山門ヨリ三井寺ヘ押寄テ。悉焼拂フ。又同年南都ノ大衆モ朝家ヲウラムコト有テ。神木ヲ入洛セシメ。嗾訴ニ及ビケリ。八月。北條長時死ス。歳三十五年。四月。一條良實関白ヲ辞ス。一條左大臣實經関白トナル。十月。實經左大臣ヲ辞ス。近衛右府基平左ニ轉シ。鷹司内府基忠右大臣ニ任シ。大炊御門

冬忠内府ニ任ス

三年四月蓮花王院造替供養行ハル。主上行幸。一院新院御幸。百官供奉儀式嚴重ナリ。六月將軍宗尊倭歌ノ會ニ事ヨセ。近習ノ者ヲアツス。密ニ北條時宗ヲ討テ。自ラ天下ヲ領セントノ謀ヲメグラシ。病氣ノ由ニテ。松殿僧正良基ヲ驗者トシ。常ニ近侍ス。事ヤ、アラハレケレハ。良基逐電ニ。高野山ニ入テ。斷食シテ死ス。七月時宗政村并北條實時秋田城。父泰盛相談シ。宗尊ヲ廢セニコトヲ議ス。鎌倉騷動ス。北條中務教時ハ。宗尊ニ心ヲ寄シカドモ。時宗ヨリ制シケレバ止ヌ。宗尊遂ニ職ヲ止ラレテ歸洛。後嵯峨ノ上皇。シバラクハ對面セラレヌ。中御門左

少辨經任ヲ關東へ遣シ謝シラル。武家別義ナキニヨリテ。世ノ中無事ニナリヌ。宗尊ハ建長四年ヨリ今年マテ。在位十五年ナリ。サテ鎌倉ニハ。時宗政村カハカラヒニテ。宗尊ノ子ニ惟康トテ。僅ニ三歳ナリシヲ。取立テ主君トス。同月惟康征夷大將軍ニ任シ。從四品ニ叙ス。

四年正月冬忠内大臣ヲ辞ス。関白實經カ子家經内大臣ニ任ス。十月後嵯峨上皇春日御幸。宸筆唯識論ノ供養アリ。同月西園寺前相國公相薨ス。歳四十五。父入道相國實氏ハ猶存生ナリ。十二月一條實經関白ヲ辞ス。近衛左府基平關白トナル。今年禪僧紹明來ヨリ歸ル。紹明ヲ南浦

ト号ス。其弟子ヲ宗峯ト云。紫野大徳寺ノ開山ナリ。
此比異朝ニ蒙古國北狄ヨリ起テ。中華ヲシタガヘ。大
元國ト号シ。高麗國へ使者ヲ遣シ。其ヨリ案内
者ヲ得テ。日本へモ書簡ヲ贈リ。蒙古へ貢物ヲサ
グベキ由申スト云トモ。高麗王日本へハ道路甚遠
シテ。急ニ通ジガタシト云ニヨリテ。使者空ク歸ル
五年十月近衛關白基平薨ス。歳二十二。十二月
鷹司ノ左大臣基忠關白トナル。同月新院ノ富
小路ノ御所ニテ。一院五十ノ御賀アリ。舞樂御覽セ
ラル。此比一院ハ御落飾アリテ。法皇ト号ス。惣シテ
此比ハ世静カナルニヨリテ。一院新院洛中洛外御幸
御遊多シ。仙洞ニテ五十ノ御賀アルトテ。其用意

アル所ニ。蒙古國ヨリ日本へ送ル狀。宰府ニテ到着關東
へ送リ。武家ヨリ内裏へ奉ル。菅原宰相長成ニ其返簡
ヲ書シ。世尊寺經朝卿清書ス。シカレトモ武家談合
ニ蒙古ノ書面無禮ナリトテ。返狀ニ及バス
六年三月關白基忠左大臣ヲ辞ス。一條家經左大臣
ニ任ズ。花山院内大臣通雅右大臣ニ任ズ。父我大納言源
通成内大臣ニ任ス。六月七日西園寺入道相國實氏
薨ス。年七十六。主上新院ノ外祖ナリ。十一月通成内
大臣ヲ辞ス。二條良實ノ子師忠内大臣ニ任ス。此年
蒙古ノ使者高麗ノ船ニ乘テ對馬ノ國ニ到。日本ノ塔
二即彌二郎ト云者ヲ捕テ。蒙古へ歸リ。日本ノ事ヲ
尋問テ。祿物ヲアタヘテ歸ラシム

七年正月北條時茂六波羅ニテ卒ス。歳三十。十月。
二條前關白良實薨ス。歳五十五。福光園院ト號ス。
同日將軍惟康從二位ニ叙シ左中將ニ任シ源姓ヲ賜フ。
此年蒙古ノ使者趙良弼高麗國ヘ到リ。日本ヘノ通事
ヲ請フ。

八年三月花山院通雅右大臣ヲ辞ス。二條師忠右大臣ニ
任ス。花山院師繼内大臣ニ任ス。九月蒙古ノ使者趙良
弼等筑前今津ニ著テ牒狀ヲ呈ス。公家武家返事ニ
及ズ。良弼筑紫ヨリ空ク歸ル。日本ヨリモ使者彌四郎
ト云者ヲ添テ遣ス。蒙古ノ王彌四郎ニ對面シテモテ十
ニテ飯ス。十月北條義宗鎌倉ヨリ上洛シ六波羅ノ
北方ニ居テ。南方ニ居ケル時輔ト兩六波羅タリ。義宗

長時カ子ナリ

九年正月惟康從二位ニ叙ス。中將元ノ如シ。二月十五
日鎌倉ヨリ早馬六波羅ノ北方北條義宗ガ許ニ來ル。義
宗即俄ニ南方ヘ押寄時輔ヲ討ヒス。時宗ガ兄ナレバ。年
來弟ニ家督ヲ取ラレ逆心ノ巧マリケルガ。忽アラシメテ。時
輔討シケレ。鎌倉ニモ其同類北條公時北條教時等殺
サル。是ヲ二月騷動ト申ス。同月十七日後嵯峨法皇崩ス。
歳五十二。讓位ノ後院中ニテ政ヲ行コト二十歳餘。世モ
ツカナルニヨリテカクノコトク安樂ニテ終タマフ。此以後ノ皇
統ハ新院 後深草 ト主上 龜山 ト御兄弟ノ二流カハルク即位
アルベシト。御遺言アリト云ツタフレド。實ハ北條時宗朝廷ヲ
二流トシテ其勢ヲ分クサシタメニ御二流カハルク治世ア

ルレトハカフロケルトナシ

十年五月鷹司基忠關白ヲ辞ス九條忠家關白トナル

同日北條政村死ス。歳六十九。義時カ四男ナリ。六月時宗

北條義政ヲシテ執權ノ加判セシム。政村カ替ナリ。六月重時

ガ四男ナリ。八月山階前左大臣藤原實雄薨ス。歳五十

七。主上新院ノ舅ニテ。後宇多伏見ノ外祖也。且西園寺ノ一家

ナルヨリ。威ヲ當世ニフルリ。此年蒙古ノ使者趙良弼

來朝ス。都ヘモ鎌倉ヘモ入テレズ。大宰府ヨリ追返サル。

十一年正月。主上二十六歳ニテ。位ヲ御子世仁ニ讓ル。

年號文應一年。弘長二年。文永十一年。在位合十五年

九十年代

後宇多院 諱世仁。龜山ノ太子ナリ。母ハ左大臣藤原實

雄ガ娘。姑子ナリ。後京極ノ女院ト号ス。

文永四年十二月誕生。同十一年正月受禪。三月即位。

時八歳。九條關白忠家攝政ス。此時後深草ヲ本院ト

云。龜山ヲ新院ト申ス。二月西園寺前右府公基薨ス。年

五十五。同月德大寺前相國實基薨ス。歳七十二

三月。蒙古ノ大將二人。大船三百艘。舟船三百艘。小船三

百艘ヲ率テ。日本ヲ攻シタメ出陣。數度使者牒狀ヲ

贈ルト云トモ。日本ヨリ返事ナキ故也。コレニヨリテ。内

裏ニハ諸社ヘ祈念セラル。關東ヨリ筑紫ヘ下知シテ。武

備ヲコタルコトナシ。六月忠家攝政ヲツメラレテ一

條。左大臣家經攝政ス。七日。前將軍宗尊親王。京

都ニ薨ス。歳三十三。十月。蒙古ノ兵船對馬嶋ヘ寄來ル。

武士等防戩フセキ。蒙古ノ兵法亂ミヤテト、ノホラス。其上矢
夕子ツキケレバ筑紫ノ海邊處々ミヤ盪妨ミヤレテ歸ル。同月。
本院後深草ノ御子熈仁ヲ東宮ニ立ラル。此御子ハ主上
ヨリ歳ニツミサリタマフユ。新院龜山ノ代ニ東宮ヲアラス
ヒタマフ。サレドモ後嵯峨法皇ノ御心新院ヘトヲホシメス
ヨレ。御母大宮女院ヨリ。關東ヘ仰セソカハサルユヘ。主上
ノ御位サタミリス。故ニ新院ハ位ユヅリテ後モ政務ヲ
シロシメシ心ノミニフルミイタマフ。本院ハ何事ニモカミ
イタマハ子ハ世ヲ捨捨落飾落飾セシテラホシメシケルトコロニ。北
條時宗ガハカヲヒニテ。熈仁ヲ東宮ニ立申ケレバ。本院
ヨロコビテ。落飾ニ及ズ。新院ノ心モトケテ。本院ト御中ヨ
クナリケレバ。大宮女院モ嘉悦セラル。此以後ハ讓位即

位立坊モ皆關東ヨリノハカヲヒナリ
建治元年二月。蒙古ノ使者杜世忠等日本ヘ渡ル。高麗
人モ同ク來ル。太宰府ニテコレヲ改テ。杜世忠等二人ヲ
鎌倉ヘ遣ス。洛中ヘハイレズ。書簡來ルトイヘトモ。返簡
ニヲヨバス。六月。九條前攝政忠家薨ス。歳四十七。
一音院ト号ス。八月。花山院前右府通雅太政大臣
ニ任ス。十月。一條家經攝政并ニ左大臣ヲ辞ス。鷹司
前關白兼平攝政。十二月。一條右府師忠左ニ轉
シ。九條大納言忠教右府ニ任ス。花山院師繼内府ヲ辞
ス。近衛家基内府ニ任ス。忠教ハ忠家子
家基ハ基平子 同月。北條
時國上洛六波羅ノ南ノ方タリ。時房ガ
曾孫也 今年僧一遍初
テ時宗ヲ開ク

二年五月。花山院相國通雅薨ス。歳四十四。十二月。攝政兼平太政大臣ニ再任ス。今年蒙古ノ使者長門國ニ到着。鎌倉ヘ召下シ首ヲ刎ラレ

三年正月。主上元服。歳十一。兼平加冠タリ。理髮ハ頭中將具顯ナリ。同日。龜山上皇ヘ朝覲行幸

三月。右清水行幸。四月。賀茂行幸。同日。兼平太政大臣ヲ辭ス。五月。北條義政執權加判ヲ辭シ。

剃髮シ。信濃塩田ニ閑居ス。時宗一判ニテ。大小事ヲ下知ス。十二月。東宮熙仁元服。春宮傳二條左大

臣師忠加冠タリ。春宮大夫源具守理髮タリ。弘安元年正月。北條時村上洛。六波羅ノ北ノ方

政村カ
子カ

十二月。兼平攝政ヲ辭シテ關白トナル。

二年正月。將軍源惟康正二位ニ叙ス

三年二月。蒙古ノ使者杜世忠ヲ殺ス。此事傳聞ケル

ニヤ。蒙古ノ大將等。大軍ヲ率テ日本ヲ滅本京ントハカル

ヨレキコヘケレハ。公家ヨリ伊勢ヘ勅使ヲツカハサレ。諸寺

諸社ヘ祈念セラル。北條時宗鎌倉ニ居テガフ。筑紫ノ

武士等ニ命ジテ。防戰ノ備ヲナサシメ。關東ヨリ軍兵ヲ

一タノボセテ。主上東宮ヲ守護シ奉リ。本院後深草新

院。龜山ヲ關東ヘ御幸ナシ申ベシト議定ス。又筑紫ノ

左右ニヨリテ。兩六波羅ノ兵鎮西ヘ下向スベシト下知セ

ラル

四年正月。蒙古國ノ大將阿剌罕。范文虎。忻都。洪茶

丘四人十萬人ヲヒキイ。六萬艘ノ兵船ニテ海ニ浮ス。

阿刺罕ハ路次ニテ病ニカレリ。范文虎等軍評定、
千く十リシユヘ。一決シガタシ。七月蒙古ノ兵船ノ
コラス日本ノ平壺嶋ニ著。其ヨリ五龍山ヘウツル筑紫
ノ武士トモ待カケテ合戦セントスルトコロニ八月一日。
大風吹テ。蒙古ノ船悉ク破損ス。范文虎等ノ諸大
將ヨキ船ニ取乗テ。行方シラス逃テ行。十萬ノ軍勢
五龍山ノ下ニ漂アリシガ。兵糧ナクシテ。飲食セザ
ルゴト二百ニ及フ。サレドモ諸人相談シ張百戸ト云モ
ノヲ物頭トシ。船ヲ造リカヘントスルトコロニ同七日日
本ノ兵トモ押寄テ攻レハ。蒙古戰マケテ討ル。若多
シ。打殘サレタル三萬人ヲバ。日本ノ兵トモ皆コレヲ生
捕テ八角嶋ニテコトコトク斬殺ス其内干間莫奇兵

萬五ト云ル三人バカリヲユルシテ此趣カタレトテ國
歸ラレム。六波羅ヨリ宇都宮貞綱ヲ大將トシ。中
國ノ勢ヲアツメ。筑紫ヘ赴ク備後ノ邊ニテ。蒙古ス
テニ破ト聞ト云トモ。貞綱ハ九州ヘ下リ。彌異賊襲來
ノ備ヲナシテ歸ル。此度ノ大風諸神冥慮ノ驗ナリ
トテ。伊勢ノ風ノ社ヲ風ノ宮トアガメラル。我國ノ神
風蒙古ノ船ヲ吹破トハ此時ノ事ナリ。又世ニモクリ
コクリト云ニテ。ヲソロシキ事ニ云ナラハス。蒙古國裏
ト云事ナルベシ。干間等三人逃レ歸テ。此趣ヲ蒙古ノ
君ニカタル。蒙古ノ君ハ元朝ノ世祖皇帝ナリ
五年十月。興福寺衆徒朝家ヲウラフニ。春日ノ神木
ヲ捧テ入浴。十二月。中納言源具房ヲ誅テ安藝

國へ流ス。其後神木歸座。今年北條時宗圓覺寺ヲ建
テ。禪僧祖元ヲ開山トス。祖元ハ此比時宗カ招ニテ、
中華ヨリ來朝セリ。佛光禪師ナリ。

六年二月。時宗北條業時ヲレテ。執權ノ加判セシム。
是ハ重時カ五男ナリ。

七年正月。久我大納言源基具從一位ニ叙シテ。官職
ヲ辭ス。二月。大臣ニ准ジテ。朝參セシム。儀同三司
ト號シ。大臣ノ下。大納言ノ上ニ列ス。四月四日。北條
相模守時宗。病ニヨリテ。剃髮遁果ト號ス。同日ニ卒
ス。歳三十四。寶光寺ト號ス。文永元年ヨリ。今年ニテ。
執權タルコト二十一年ナリ。嫡子左馬權頭貞時。十四
歳ニテ。遺跡相續シ。將軍惟康ノ執權タリ。北條業

時加判ス。貞時カ外祖秋田城。ハ泰盛陸奥守ニ任
ス。其威勢肩ヲ並フルモノナシ。同年。北條時國。六波
羅ニテ。逆心ツル由キユケレバ。關東へ呼下シ。常陸國へ
流シ。其後遂ニ殺ス。七月。一條前關白實經薨ス。歳
六十二。圓明寺ト號ス。今年。元朝ヨリ王積翁ヤキウト
云ル使者ニ如智ニト云ル禪僧ヲソヘテ。日本へ渡シ。我
國ノ風俗ヲウカヒ見セシム。路次ニテ王積翁。同船ノ
者ニ殺サレヌレハ。其事ヤミス。此比龜山ノ新院并鎌倉
ノ北條。禪法ヲ好ムヨシ。異國へ風聞スルユヘシ。
八年二月。北山ノ准后從一位貞子。九十ノ賀行ハル。
是ハ鷲尾大納言隆衡カ娘ニテ。故西園寺相國實氏
ノ室ナリ。大宮女院ノ母ナレハ。本院後深草新院龜山

ノ外祖母ニテ。主上後宇多東宮伏見ノ曾祖母十
リ。本朝古來後宇多メテタキ例アリト云トモ。或ハ壽命短
クテ。御子ノ在位ヲ見ス。或ハ御子ノ帝ニラズレテ。長
生ヲ悔ルモアリ。大宮女院帝三代ノ國母ニテ。主上
東宮ヲ孫ニモテ。其母猶存生ニテ。一家富榮ヌレバ。
タメレスクナキ果報ナリ。此賀ニモ。主上北山行幸兩
院モ御幸。東宮モ行啓ニテ。サレバノ御遊アリ。四
月鷹司前關白基忠太政大臣ニ任ス。父兼平前相國
ニテ。再任關白ノ當職ナリ。父子ノ榮。一時ニテラビナ
レ。同月北條貞時相模守ニ任ス。秋田城秋田外
祖ノ勢ヲ假テ。ホレヒニ威ヲ振フ。貞時カ内管領
平左衛門尉賴綱ト云モノアリ。泰盛ト中アレクニテ

權ヲ爭フ。泰盛ガ子宗景驕ノアリ。曾祖景盛ハ。朝
朝ノユカリアリト云テ。藤原姓ヲ改テ源氏ニナル。賴
綱コレヲ訴テ。彼源氏トナル事ハ將軍ニテラシト志ナ
ルニ。申ケレバ。貞時モケニモト思ヒケルカ。實ニ逆心
アリケルニヤ。同年十一月泰盛宗景以下一族并
其同類皆誅セラレヌ。是ヲ霜月騷動ト申スコレヨリ
賴綱一人ニテ威ヲ振ヘリ。賴綱髮ヲソリテ果圓ト
號ス。今年北條兼時上洛。六波羅ノ南ノ方ニアリ。
是ハ時賴カ孫ナリ。

十年六月。將軍惟康中納言ニ任レ。右大將ヲ兼ラル。
同月北條業時剃髮ス。貞時北條宣時ヲレテ。業時
三代テ。執權加判セシム。是ハ時房ガ孫ナリ。北條時村

京ヨリ鎌倉へ歸ル。八月、鷹司關白兼平上表ス。二條左府師忠關白トナリ。十月、惟康二親王宣下アリテ、二品ニ叙ス。同月、主上位ヲ東宮熙仁ニ讓ル。主上今年ツツカニ十一歳十六、龜山ノ新院モノヨリヲホクヲホシメシ。主上モ本意ナラ子トモ後深草ノ本院待カ子タニスヘシト。關東ヨリ奏シ申セ、御心ノ下、ナラス讓位アリケルトナシ。年號建治三年。弘安十年合、在位十三年。

九十一代

伏見院 諱熙仁。後深草院ノ子。母ハ玄輝門院藤原愔子。山階左大臣實雄ガ娘ナリ。

文永十一年十月、北條時宗カハカラヒニテ、東宮ニ

立。弘安十年十月即位。時三十三。二條師忠關白アリ。此時太上天皇三人アリ。後深草院政ヲシロシメス。一院トモ本院トモ號ス。龜山院ハ中ノ院ト號ス。後宇多院ハ新院ト號ス。昔ニヒキカヘ何事ニモカノワズ。正應元年四月、關白師忠左大臣ヲ辭ス。六月、西園寺大納言藤原實兼ガ娘入内。實兼ハ公相カ子ナリ。七月、九條右府忠教左ニ轉シ、近衛内府家基右府ニ任ス。又我大納言源通基内府ニ轉ス。九月、通基葬學淳和兩院、別當源氏ノ長者トナル。兩院別當ハ又我ノ家タク傳ヘ任セシガ源氏長者ノ仰ハ是ヨリ苑トナシ。十月、通基内府ヲ辭ス。鷹司冬忠内府トナリ。基忠ノ弟ナリ。今年北條兼時

六波羅ノ南ノ方ヨリ北ノ方ニ移リ。北條盛房ヲ
レテ。南ノ方ニ居シム

二年四月。二條師忠關白ヲヤメテ。近衛右府家基
關白トシ。同月。主上第一ノ皇子胤仁ヲ太子ト
ス。八月。准大臣源基具太政大臣ニ直任ス。九
月。鎌倉騷動ノ事アリ。將軍惟康親王俄ニ上洛セラル。
去八月十五日。鶴岳放生會ニテ。行粧ヲツクロヒ。參
宮。相模守貞時。陸奥守宣時ヲ始トシ。武士トモ圍繞尊
仰セシガ。俄ニ事サハカレクナリテ。網代興サカレ。ニヨセテ。
惟康ヲ載テ。鎌倉ヲ追出セリ。輿ヲサカサ。ニノリテ
出ルモノハ。再歸ルコトナレト云。詔アルユヘニガクハカラフイ
ケルニヤ。時ノ人。鎌倉ノ將軍。ニヤコヘ流レタマフトソ。口

ズサニケル。文永三年ヨリ今年ニテ。在職二十四年ナ
リ。入洛ノ後。剃髮シ。嵯峨ノ邊ニカスカニ住レケルトゾ。時
三二十六歳。九月。北條貞時カハカラフヒニテ。後深草
本院ノ御子。主上ノ御弟。又明親王ヲ。鎌倉へ迎へ
奉リ。主君ト仰ヘレトシ。飯沼判官ト云モノ。以下各ア
ハ。武士七人御迎ニ上洛。飯沼判官ハ。頼綱入道ガ。次
男ナリ。十月。又明親王元服。征夷大將軍ニ任シ。一
品ニ叙シ。式部卿ヲ兼ラル。ス。八千仙洞ヨリ。六波羅へ
ウツリ。遂鎌倉へ赴タマフ。時二十六歳。惟康飯洛ノ
時。通ラル。足柄越ヲバサケテ。別ノ路ヨリ。下向ス。鎌倉
ニテ。モ惟康ノ住ケル館ヲ。ハコボク。新ニ幕府ヲ造テ。貞
時等カレヅキ奉ル。惟康ノ娘ヲ。又明ノ御息所トス

同日關白家基右府ヲ辭ス。鷹司内府兼忠右府ニ
任ス。西園寺大納言實兼内府ニ任ス。實兼娘中宮
ニタツト云トモ子ナレ。皇子胤仁ハ參議藤原經ノ
娘ノハラニ出來タリレヲ。中宮ノ養ヒニテ。即太子ニ立
テ。實兼外戚ノ威ヲフルヘリ。是モ北條トシタキユヘルヘ
ニ
三年三月四日。崇宸殿ノ獅子狛犬中ヨリウレタリ。人
皆アヤシム。九日ノ夜。甲斐源氏ノ末淺原ハ即爲頼
ト云モノ。其子二人ヲ携テ甲冑ヲ著シ馬ニ騎ナガラ。
内裏へ馳入。女房トモ一向テ。主上ノ御座所ヲ尋問ヲ
アナタコナタスル内ニ。主上ハ女房ノスガタニテ。丹心ニ出テタ
マヒ。中宮東宮モヒソカニ他所へ逃タマフ。爲頼父子

中宮ノ御方へ尋行テ。御座所ヲモトム。宿直ノ侍
モト戰フ内ニ。近邊篳ノ武士五十騎馳來ル。爲頼カ
十八ト思テ。夜ノヲトシ。御前ノ上ニテ。自害。其長男
公繁宸殿ノ御帳ノ中ニテ。自害ス。次男ハ大障子ノ
下ニ卧テ。暫矢ヲ放テ防ケル。九武士等生捕シテ。ケ
レバガナハテ。自害ス。其屍ハ六波羅へ遣シテ。實檢ス。
爲頼カ放ツ矢ジルニ。太政大臣源爲頼ト書セシトナ
ン。抑爲頼ハ強弓大カニテ。惡逆ノ張本ナル故ニ。鎌
倉ヨリ其所領ヲ沒收シ。國へフレテ捕シム身ノ置處ナ
キユヘニガクノゴトク。アサニキ事仕出シケルニヤ。然
レトモ爲頼カ自害セシ刀ハ三條宰相中將實盛ガ家
ニ相傳セル刀ナリト云ニヨリテ。六波羅ヨリ實盛ヲ

召捕テ敷問スコレヨリ糾明ツノリテ龜山中ノ院ノ
御心ヨリヲコルト沙汰アリ。西園寺實兼ガ子中宮大
夫公衡コレヲ聞テ皇統アフラケリ武家ノハカラヒニテ。
當今即位シタマフヲ。中院 龜山 新院 後宇多ウラミタ
マヒテ。密ニ爲頼ニ仰付ラル、ナルニ。中院ヲ六波羅
ヘウツシ申シ。評議ノ上ニテ遠流ニ處シ申サント。本院
後深草ヘ奏スト云トモ御許容ナシ。中ノ院新院六
ニサワギ誓詞ヲ鎌倉ヘツカハサレ。謝シタマヘ武家コ
トナル沙汰ニ及ズニテ。事ニツマリ又。同月源基具
太政大臣ヲ辭ス。四月西園寺實兼内大臣ヲ辭
ス。六月大炊御門大納言信嗣内大臣ニ任ス
九月中院 龜山 落飾歳四十一。金剛覺ト號ス。禪林

寺殿ト申ス。禪宗ヲ歸依シタマフ。今ノ南禪寺ハ此
院ノ皇居ナリ。十二月信嗣内府ヲ辭ス。洞院大
納言公守内府トナル。是ハ實雄ガ子ナリ。
四年二月本院 後深草 落飾年四十八。法諱ハ素實
ト云。五月近衛家基關白ヲヤメラレテ。九條左府
忠教關白トナル。七月洞院公守内府ヲ辭ス。二條
兼基内府トナル。十二月忠教左府ヲ辭ス。同
月西園寺前内大臣實兼太政大臣ニ任ス。鷹司右府
兼忠左三轉ニ一條内府兼基右府ニ轉ス。德大寺公
孝内府ニ任ス。抑後堀川院貞應元年西園寺公經太
政大臣ニ任セヨリ以來實氏公相實兼ニ至マテ。四
代相續テ任ス。西園寺四代相國トハ是ナリ。

五年五月。公孝内府ヲ辭ス。八月。大納言從一位源定實准大臣。十一月。三條實重内府ニ任ス。十二月。實兼太政大臣ヲ辭ス。

永仁元年正月。三條實重内府ヲ辭ス。九條師教内府ニ任ス。二月。九條忠教關白ヲ止テ。近衛家基關白ニ再任ス。三月。北條貞時初テ北條兼時ヲ。六波羅ヨリ筑紫ヘツカワシ。鎮西ノ探題トシ。西國ノ成敗ヲ掌リ。異賊ノヲサヘトス。又一族ノ内一人ヲ長門ノ探題トシ。中國ノ事ヲツカサドラシム。北條久時ヲ。六波羅ノ北ノ方ニ居シム。兼時ガ代ナリ。久時ハ長時ガ孫ナリ。四月。鎌倉大地震。壓死者一萬人ニ及ベリ。此比貞時ガ管領平左衛門尉賴綱入道果圓ホシヒマ。

ニ威ヲ振フ。其次男飯沼判官父ニシトラス。權勢アリ。時ノハコレヲ飯沼殿ト號ス。又安房守ニ任ジ。驕ノアリ。貞時ヲナヒカレロニスルノミナラス。賴綱ヒソカニ安房守ヲ將軍ニ任セント謀ル。賴綱ガ長男宗綱。コレヲ貞時ニ告ゴレニヨリテ。賴綱并安房守誅セラレヌ。宗綱ハ佐渡ヘ流サル。其後召歸サレ。管領タラシム。又罪アリテ上総ヘ流サル。十二月。一條前攝政家經薨ス。歲四十六。後光明峯寺ト號ス。二年八月。鷹司前關白相國兼平薨ス。歲六十七。稱念院ト號ス。

三年六月。北條兼時鎮西ヨリ鎌倉ヘ歸リ。九月。病死。年三十五。

四年六月近衛關白家基薨ス。歳三十六淨妙寺ト
號ス。七月鷹鳥司左府兼忠關白トナル。左府ヲ辭ス
十一月吉見孫太郎義世ト云モ謀叛事ヲハレ
テ鎌倉ニテ斬ル。義世ハ三河守源範頼ガ末葉ナリ
十二月二條兼基左府ニ轉ス。九條師教右府ニ任
ス。准大臣源定實内府ニ任ス。

五年五月北條盛房六波羅ヨリ鎌倉ヘ歸ル。六月
北條又時六波羅ヨリ鎌倉ヘ歸ル。北條宗方北條宗
宣上洛兩六波羅タリ。宗方ハ北方タリ。宗宣ハ南方
タリ。十月源定實内府ノ官ヲ止ラレテ。又我大納
言源通雄内大臣ニ任ス。大納言源通頼准大臣。今
年北條貞時諸國ヘ使者ヲ遣テ守護ノ善惡ヲ尋

民間ノ愁苦ヲ問フ。是ヨリ年々使者ヲツカハス。其
使者往サキニテ惡事アリケルヲ貞時ニラサル處ニ出
羽國羽黒ノ山伏來テ直訴シケルニヨリテ。彼使者ガ惡
事ヲ糾明シテ罪ニ行フ者百人アリ也。其後諸國ヨク
治リテ人皆其善政ヲ感ス。

六年二月中納言藤原爲兼隱謀ノキコヘアルニヨリ武
家ヨリコレヲ捕テ佐渡ヘ流ス。六月又我内大臣通雄
官ヲ辭ス。西園寺大納言藤原公衡内大臣ニ任ス。
七月主上位ヲ太子胤仁ニ讓テ。伏見殿ニ遷リタラフ。
持明院殿トモ申ス。年號 正應五年 永仁六年合
テ。在位十一年

九十二代

後伏見院

諱八胤仁伏見院ノ太子也母八中宮永福門

院西園寺相國實兼カ娘ナリ實八宰相藤原經氏カ
女經子カ産ルトコロナルヲ中宮養テ太子ニ立ラレ

永仁六年七月即位時二十一歳鷹司關白兼忠攝政ス

此時後深草龜山後宇多伏見皆存生ニテ院ノ御所

四人アリ 八月後宇多ノ院ノ子邦治ヲ東宮ニ立ラ

ル主上ノマタイトコナリ 十二月兼忠攝政ヲ止ラヒニ

條左大臣兼基攝政ス

正安元年四月攝政兼基左府ヲ辭ス九條師教左二

轉ジテ西園寺公衡右府ニ任ス鷹司大納言冬平内

府ニ任ス 六月洞院前内府公守太政大臣ニ任ス

同月西園寺前相國實兼落飾歳五十一 十月公

守太政大臣ヲ辭ス 十一月二條攝政兼基太政大臣

ニ任ス 十二月公衡内府ヲ辭ス徳大寺前内府公

孝右府ニ任ス 今年元朝ヨリ禪僧一山來朝ス是ハ

彼國主ノ密詔ヲウケテ日本ヘノ間諜ノ爲ナリ北條

貞時コレヲサトリテ一山ヲ捕テ伊豆ヘ流ス其後赦免

シテトモ一山本國ヘ飯ラス日本ニ留リ禪法ヲ弘メ南

禪寺ノ住持トナリ此北來朝ノ禪僧ニハ一山ガタケヒ

猶多カルヘシ

二年正月主上元服攝政兼基加冠タリ 四月兼

基太政大臣ヲ辭ス 七月北條實政鎮西探題ト

ナリテ下向是ハ義時五代ノ孫ナリ 十一月北條

宗方六波羅ヨリ鎌倉ヘ歸ル 十二月兼基攝政ヲ

止三。關白十十九

三年正月。鎌倉ヨリ隱岐前司時清山城前司行真使節トシテ上洛シ。主上ノ御位ヲスヘラセ奉リ。東宮へ譲リ。ヒマス。主上十四歳ニテ。太上天皇ノ尊號ヲ蒙ル。年號ハ正安。在位三年。

九十三代

後二條院 諱ハ邦治。後宇多院ノ第一ノ御子ナリ。母ハ源基子。父我大納言具守カ娘ナリ。十三ニテ東宮ニ立正安三年正月。武家ノハカヲヒニテ即位。時二十七歳。二條兼基關白タリ。龜山法皇。後宇多上皇院中ニテ政務ヲキコシマス。伏見後伏見在位ノ時ニハ參リ仕ル人モ稀ナリ。ヒニ又ウツリカハレリ。六月。土御門

前内府源定實太政大臣ニ任ズ。後宇多上皇ノ寵臣ニテ。其子大納言雅房中納言親定。皆登庸セラル。同月。北條基時上洛。六波羅ノ北方ニアリ。業時カ孫ナリ。八月。伏見上皇ノ第二ノ子。富仁ヲ東宮ニ立ラル。同月。北條貞時剃髮。法名ヲ崇演トス。執權ヲハ其婿北條師時ニ讓ル。師時ハ時頼カ孫ナリ。九月。北條宣時モ剃髮ス。北條時村ハ政村カ子ニテ。年長タルニコリテ。貞時ガハカヲヒニ。師時ニ副テ執權加判セシム。時村カ孫。熙時モ貞時ガ婿ナレバ。師時時村甚睦シクシテ。貞時カ旨ヲ受テ事ヲ行フ。乾元元年正月。北條宗宣六波羅ヨリ鎌倉へ歸ル。北條貞顯其替トシテ上洛。六月。龜山殿へ行幸。法皇ニ

十月源定實太政大臣ヲ辭ス 九月
貞時最勝園寺ヲ建テ供養ス將軍久明親王參詣
セラル 十一月德大寺右府公孝太政大臣ニ任ス鷹
司内府冬平右府ニ遷リ一條大納言内實内府ニ任ス
嘉元元年十月北條基時京ヨリ鎌倉ニ歸ル 十一月
北條時範其代ニシテ上洛 今年貞時カ子高時誕生
或ハ永仁元年ニ生レタリトモ云リ

二年三月德大寺公孝太政大臣ヲ辭ス 七月後
深草法皇富小路ノ御所ニテ崩ス歳六十二兩六
波羅貞顯時範士卒ヲ率テ門前ニ來テ床机ニ腰カ
ケテ候ス伏見殿ニテ葬禮アリ 十二月一條内府
内實薨ス歳二十

三年正月近衛大納言家平内府ニ任ス此北條時
時北條時村二人貞時カ名代トシテ執權ス北條宗
方公時頼カ孫ナリ師時ト權ヲ争フ然レトモ時村モ
師時トシタレキユ其勢ツヨシ故ニ先時村ヲ殺シテ
後師時ヲ謀ントラモヒ密ニ將軍久明ノ仰ナリト稱シ
兵ヲアツメ時村ヲ夜討シテ攻殺ス時村時ニ六十四
歳也貞時怒テ北條宗宣ト宇都宮貞綱ヲ遣テ宗
方ヲ討殺ス其同類皆殺サル宗宣フシテ師時ニ副テ
執權加判セシム 四月一條兼基關白ヲ止テ九條
左府師教關白トナル左府ヲ辭ス 九月龜山法皇
崩ス年五十七葬送ノ時後宇多上皇モ供奉セラ
ル公卿殿上人多ク從ヒ奉ル此法皇在位ノ初十三ノ

御歳ヨリ御子出来テ讓位ノ以後腹々二年々男
女ノ御子アエタアリ別腹ノ御妹ニモ忍ビテ通ヒタヒテ皇
女誕生ス落飾ノ後モ御子アエタアリトナシ 七月德
大寺前相國公教盡ス年五十三 十二月鷹司右
府冬平左府ニ轉ジ近衛内府家平右府ニ昇リ一條
大納言實家准大臣遂ニ内府ニ任ス 同月西園寺
前右府公衡後宇多上皇ノ勅勘ニヨリテ伊豆伊豫
兩國并左馬寮ノ職召放ラル實ハ武家ヨリ申シ行
フヨレナリ
德治元年二月公衡勅免ヲ蒙テ出仕所領皆返シ
賜ル武家ヨリ執奏スルニナリ 六月一條實家内府
ヲ辭ス 十一月家實太政大臣ニ任ス二條大納言

道平内府ニ任ス
二年二月中納言平經親勅使トシテ鎌倉へ下向
三月歸洛ス 七月國母遊義門院崩ス年三十八
後宇多上皇最愛ノ御方ナリヨリテ悲歎ニタヘス御
落飾法皇ト號ス時二十四歳ナリコレヨリ眞言ノ密法
ヲ傳授シ女色ヲ絶テ嵯峨大覺寺ヲ建テ寛平ノ
跡ヲ慕フ或説ス遊義門院崩セシ翌年ニ御クシラ
レタマフトモ云リ 八月北條時範六波羅ニテ死ス
北條貞房其代トシテ上洛ス
三年七月北條貞時ガハカラヒニテ將軍又明親王歸
洛セラレ正應二年ヨリ今年ニテ在位二十年天下ノ
武將ノ名バカリニテ大事小事皆北條カマナレドモ

漸年ヲ歴ル^ルト久キユ^ニ職ヲカヘケルニヤ。久明ノ子守邦親王ヲツカニ七歳ナリシヲ。征夷大將軍ニ仰キテ鎌倉ノ主トス。貞時ステニ剃髮ナルユ。北條師時。北條宗宣ヲレテ執權連署。守邦ノ母ハ惟康ノ娘ナリ。八月主上崩ス。歳二十四。年號 乾元一年。嘉元三年 德治二年餘。合在位六年餘。

九十四代

花園院 諱富仁。伏見院第二ノ子也。母ハ顯親門院藤原厚子。左大臣實雄ガ娘ナリ。後二條在位ノ時關東ノカハラヒニテ。東宮ニ立ラル。

德治三年八月。後二條崩ス。東宮即位十二歳。九條關白師教攝政。伏見上皇院中ニテ政ニロメス。九月。

武家ノカハラヒニテ。後宇多法皇第二ノ皇子尊治ヲ東宮ニ立ラル。十月。改元延慶。十一月。師教攝政ヲ止テ。鷹司左府冬平攝政。

延慶二年三月。冬平左府ヲ辭ス。西園寺前右府公衡左府ニ轉ス。六月。公衡辭退。十月。一條實家太政大臣ヲヤメラレテ。大炊御門前内府。信嗣太政大臣ニ任ス。近衛右府家平左ニ轉ジ。一條内府。道平右府ニ任シ。家平ガ弟大納言經平内府ニ任ス。

三年四月。堀川大納言源具守從一位ニ叙シ。准大臣十一月。北條貞房。六波羅ニテ死ス。北條時敦其代トシテ入浴ス。十二月。信嗣太政大臣ヲ辭ス。攝政冬平太政大臣ニ任ス。主上元服加冠ノ役ノ入ハ其前方

太政大臣三任スル例ナリ

應長元年正月。主上元服。時二十五歳ナリ。冬平如冠
タリ。近衛左府宗平理髮タリ。三月冬平復辟ニ

關白トナル。同月。前大相國信嗣薨ス。歳七十六。八

月。西園寺前左府公衡薨。此人相國ニ任セラレト

沙汰アリ。シテ方辭退ニ任セス。別號ヲ竹林院ト稱

ス。九月。北條師時頓死。歳三十七。十月二十六

日。北條相模守貞時卒ス。歳四十一。最勝園寺ト號ス。

弘安七年ヨリ。正安二年一ニ。執權當職十八年。制

髮ノ後十年。合二十八歳ナリ。嫡子高時僅二十九歳ナ

リ。北條宗宣ト。北條熙時ト。執權連署ス。熙時ハ時

村カ孫ニテ。貞時ガ壻ナリ。貞時カ内管領長崎入道

圓喜ト。高時カ舅秋田城ハ時顯ト。貞時カ遺言ヲ

受テ。高時ヲ輔佐ス。圓喜ハ平左衛門頼綱カ甥光綱ト

云モノ。子ナリ。時顯ハ城陸奥守泰盛ガ弟顯盛ト

云モノ。孫ナリ

正和元年六月。北條宗宣死。熙時一判ニテ。諸事ヲ

奉行ス。圓喜時顯等々ニ威ヲ振フ

二年七月。鷹司前關白基忠薨ス。歳六十七。關白冬

平。父ノ忌ニヨリテ。當職ヲ辭ス。近衛家平關白タリ

十月。伏見上皇政務ヲ後伏見上皇ニ讓テ。洛飾シタ

ス。主上ハ元來後伏見ノ養子タルニヨリテ。朝觀等ノ

儀父子ノ禮トシ。十二月。近衛家平左府ヲ辭ス。

二條道平右府ヨリ左三轉ニ。近衛經平内府ヨリ右

府ニボル堀川大納言源具守内府ニ任ス

二年十一月北條貞顯六波羅ヨリ鎌倉へ歸ル

四年三月源具守内大臣ヲ辭ス洞院大納言實泰

内大臣ニ任ス七月北條熙時死ス北條基時北條貞

顯執權連署ス基時公業時ガ孫ナリ貞顯公業時カ五

男ニ實泰ト云レ曾孫ナリ實泰ガ子越後守實時金

澤ニ居住ス稱名寺ト號ス其子ヲ越後守顯時ト云

貞顯ガ父ナリ皆金澤ニ住スルユ家號ヲ金澤ト云リ

稱名寺内ニ支庫ヲ立テ倭漢ノ群書ヲアツク金澤文

庫ト云ル印ヲ押タリ儒書ハ黒印ヲ用ヒ佛書ハ朱

印ヲ用ユ其舊跡今ニ傳レリ九月鷹司左府冬平

關白トナル同月北條維貞上洛六波羅ノ南ノ方

ニアリ

五年正月前内府源具守薨ス七月北條高時初

テ將軍守邦ノ執權トナリテ評定ノ座へ出時十四

歳北條基時執權ヲ辭ス後ニ稱髮シテ信忍ト稱シ普

恩寺ト號ス八月冬平關白ヲ辭ス二條左府道平

關白トナル左府ヲ辭ス十月近衛右府經平左轉

シ洞院内府實泰右府ニ任シ今出川大納言公顯内

府ニ任ス

文保元年三月高時十五歳相模守ニ任ス生レツキ執

權ノ器量ニ相應セスト云トモ泰時以來ノヲキテヲ以テ

秋田城以時顯長崎圓喜コレヲ取立ントス六月洞

院實泰右府ヲ辭ス今出川内府公顯右府ニ任ス

三條大納言公茂内府ニ任ス 九月伏見法皇崩年
五十三

二年二月主上位ヲ東宮尊治^{カハル}ニ讓ル主上六十二歳
東宮ハステニ三十三アリタマフユヘ後宇多法皇ヲ
公シメ其方サテ久待カ子申サルキ由ニテ關東ヨ
リハカラヒ申ケリトナシ年號 延慶三年 應長
一年 正和五年 文保二年合在位十一年

王代一覽卷之五

